

**外部制御用機能拡張ソフトウェア**

**WV-ASE333WUX**

**外部インターフェース仕様書**

**第 1.0 版**

**i-PRO 株式会社**



# 目次

<b>1. はじめに</b> .....	<b>3</b>
1.1. 本書について.....	3
1.2. 商標および登録商標について.....	3
1.3. オープンソースソフトウェアの取り扱いについて.....	4
1.4. 商品仕様.....	4
1.5. 機能概要.....	5
1.6. 用語について.....	5
<b>2. 設定から運用までの流れ</b> .....	<b>8</b>
<b>3. 設定</b> .....	<b>9</b>
3.1. ライセンスを登録する.....	9
3.2. 基本設定.....	12
3.2.1. サーバー証明書を登録する.....	12
3.2.2. サーバー証明書の有効期限を確認する.....	25
3.2.3. 基本設定をする.....	27
3.3. カメラ番号を設定する.....	31
3.3.1. カメラ番号を手動設定する.....	31
3.3.2. カメラ番号を自動設定する.....	33
3.3.3. カメラ番号リストをファイル出力する.....	34
3.4. グループ番号を設定する.....	35
3.4.1. グループ番号を手動設定する.....	35
3.4.2. グループ番号を自動設定する.....	37
3.4.3. グループ番号リストをファイル出力する.....	38
3.5. シーケンス番号を設定する.....	39
3.5.1. シーケンス番号を手動設定する.....	39
3.5.2. シーケンス番号を自動設定する.....	41
3.5.3. シーケンス番号リストをファイル出力する.....	42
3.6. アクセスログ.....	43
3.6.1. アクセスログに関する設定をする.....	43
3.6.2. アクセスログをファイル出力する.....	45
3.7. ファイアウォールの例外設定.....	48

<b>4. 運用</b> .....	<b>52</b>
4.1. 画像表示を制御する .....	52
4.1.1. 画面分割数を変更してカメラを表示する .....	53
4.1.2. グループを表示する .....	53
4.1.3. シーケンスを表示する .....	54
4.1.4. エリア枠を指定した色で表示する .....	57
4.1.5. 魚眼表示形式を変更する .....	58
4.1.6. 再生する .....	59
4.2. アラーム通知メッセージを表示する .....	60
4.3. 本ソフトウェアを終了する .....	62
4.4. PC を終了／再起動する .....	62
4.5. ナンバー情報を取得・登録する .....	63
4.5.1. アラーム情報を取得する .....	63
4.5.2. 認識情報を取得する .....	66
4.5.3. 滞留情報を取得する .....	68
4.5.4. 登録ナンバーリストを取得する .....	71
4.5.5. 照合用ナンバー情報を登録する .....	72
4.6. 本ソフトウェアからのクライアントへの応答 .....	74
4.6.1. HTTP ステータスコード .....	74
4.6.2. レスポンスコードとメッセージ .....	75
4.7. CGI コマンドの使用例 .....	80
4.7.1. 全方位カメラの魚眼画像を 1 画 PTZ 形式で表示する .....	80
4.7.2. カメラを多画で表示して再生する .....	81
<b>5. 故障かな!?</b> .....	<b>83</b>

# 1. はじめに

## 1.1. 本書について

- 本書は映像監視ソフトウェア WV-ASM300 シリーズ（以下、本ソフトウェア）を使って、外部制御機能拡張オプション WV-ASE333WUX（以下、本オプション）を管理するユーザー向けの仕様書です。
- 本オプションをご登録いただくことで、外部制御機能を使用することが可能となります。
- 本ソフトウェアの基本的な動作や操作のしかたについては、WV-ASM300 シリーズの取扱説明書をお読みください。
- 本書では Microsoft Windows 10 Professional をご使用の場合を例に説明しています。他の OS をご使用の場合や OS の設定によっては、画面表示が異なる場合があります。その他の OS をご使用の場合、該当する OS の取扱説明書をお読みください。
- 本書の一部または全部を複製することを禁じます。
- 本書の内容および仕様は予告無く変更することがありますがご了承ください。

## 1.2. 商標および登録商標について

Microsoft、Windows、Internet Explorer、ActiveX および DirectX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインにしたがって画面写真を使用しています。

## 1.3. オープンソースソフトウェアの取り扱いについて

本オプションでは以下のオープンソースソフトウェアを使用しています。

ソフトウェア名称	著作権	ライセンス名称
OpenSSL	OpenSSL Software Foundation	OpenSSL License/SSLeay License

対応するライセンス条件の全文を以下に記載します。

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

OpenSSL is covered by one of two licenses, depending on which release is involved. In all cases, there is a file named LICENSE in the top-level of the release. Copies can also be found here.

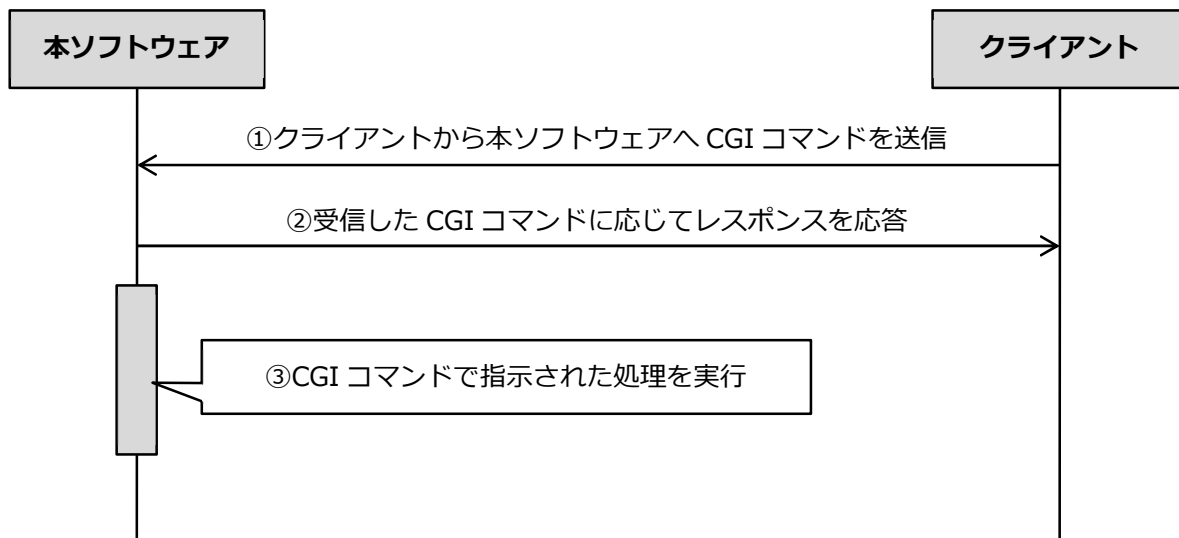
For the 3.0.0 release, and later releases derived from that, the Apache License v2 applies. This also applies to the git "master" branch.

For any release made before OpenSSL 3.0.0 (namely the 1.1.1, 1.1.0, 1.0.2, and all prior releases including those not currently supported), the dual OpenSSL and SSLeay license applies. Note that this is also true for any updates to those releases -- the "letter suffix" -- no matter when they are made. It also applies to the git branches for all those releases, and to any public forks that have not rebased to master (or 3.0.0).

## 1.4. 商品仕様

- WV-ASM300UX 対応バージョン : Ver.5.13 以上
- HTTPバージョン : 1.1
- セキュア通信 : TLS1.2
- ユーザー認証方式 : Digest / Basic 認証

## 1.5. 機能概要



外部制御機能を有効にすることにより、本ソフトウェアの一部の機能をネットワーク経由で遠隔操作することが可能になります。

- ① 本ソフトウェア上で動作させる処理を CGI コマンド（HTTP リクエスト）として、PC やネットワーク接続機器などのクライアントから本ソフトウェアへ送信します。
- ② 本ソフトウェアは受信した CGI コマンドに応じた HTTP レスポンスをクライアントへ応答します。
- ③ CGI コマンドでクライアントから指示された処理を本ソフトウェア上で実行します。

## 1.6. 用語について

本書では、以下の用語を用いて説明しています。

### ■ 管理者

本ソフトウェアの管理／運用に関する責任および権限を持った人のことです。

### ■ ライブ画像

カメラの現在の画像です。

### ■ グループ表示

カメラの画像を 1 つのグループに登録し、登録したグループ単位で画像を表示することです。

## ■ シーケンス

カメラの画像を決められた順番でグループ単位で自動的に切り換えて表示することです。本ソフトウェアでは、ライブ画像を表示するときにシーケンスを行うことができます。

## ■ 操作モニター

ライブ、再生、シーケンス、カメラ操作、検索などの本ソフトウェアにおけるすべての操作を行う基本画面のことです。

## ■ ライブモニター

ライブ画像のグループ表示およびシーケンスのみを行うライブ専用の画面のことです。

## ■ 署名リクエスト (CSR)

電子証明書の発行を認証機関へ申し込むために申請者から認証機関へ送付するメッセージのことです。

## ■ CA 証明書

認証機関 (Certificate Authority) が署名リクエストをもとに発行する電子証明書ののことです。

## ■ 自己証明書

認証機関ではなく自身のもつ私有鍵で署名して発行する電子証明書ののことです。

## ■ クライアント

本ソフトウェアの外部制御機能を利用するために外部から CGI コマンドを送信するセンサーやアプリケーションなどのことす。

## ■ AI プライバシーガード録画カメラ (オン)

AI プライバシーガード録画カメラ設定画面については対応しているレコーダーの取扱説明書をお読みください。レコーダーの AI プライバシーガード録画カメラ設定画面にて [録画カメラ] として設定された側のカメラで AI プライバシーガードがオンのカメラです。カメラの設定によっては AI プライバシーガードがかからない場合があります。AI プライバシーガード録画カメラ設定画面については対応しているレコーダーの取扱説明書をお読みください。



例：カメラ2のAIプライバシーガード録画カメラ（オン）をカメラ1に紐付け

AIプライバシーガード録画カメラ					
※AIプライバシーガード録画に対応していて圧縮方式がH.265(1)またはH.264(1)のカメラに設定できます。					
カメラ	品番	圧縮方式	カメラタイトル	録画カメラ	選択
1	X2251	H.265(1)	X2251プライバシーガードなし	カメラ2	<input checked="" type="checkbox"/>
2	(カメラ1)		X2251プライバシーガードあり		<input type="checkbox"/>
3					<input type="checkbox"/>
4					<input type="checkbox"/>

AI プライバシーガード録画カメラ（オン）

### ■ AIプライバシーガード録画カメラ（オフ）

AI プライバシーガード録画カメラ（オン）を紐付けた AI プライバシーガードがオフのカメラです。カメラの設定によっては AI プライバシーガードがかかる場合があります。

例：カメラ2をカメラ1のAIプライバシーガード録画カメラ（オフ）に紐付け

AIプライバシーガード録画カメラ					
※AIプライバシーガード録画に対応していて圧縮方式がH.265(1)またはH.264(1)のカメラに設定できます。					
カメラ	品番	圧縮方式	カメラタイトル	録画カメラ	選択
1	X2251	H.265(1)	X2251プライバシーガードなし	カメラ2	<input checked="" type="checkbox"/>
2	(カメラ1)		X2251プライバシーガードあり		<input type="checkbox"/>
3					<input type="checkbox"/>
4					<input type="checkbox"/>

AI プライバシーガード録画カメラ（オフ）

## 2. 設定から運用までの流れ

### 設定

本オプションのライセンス（解除キー番号）を登録する



#### サーバー証明書の登録

署名リクエスト（CSR）の生成



認証機関への申請 ～ CA 証明書の発行



CA 証明書の登録



基本設定



カメラ番号設定

グループ番号設定

シーケンス番号設定



アクセスログ設定



ファイアウォールの例外設定



### 運用

画面表示を制御する

アラームポップアップを表示する

本ソフトウェアを終了する

PC を終了／再起動する

## 3. 設定

### 3.1. ライセンスを登録する

外部制御機能を使用するための解除キー番号を登録します。

本オプションの登録には、キー管理システムから取得した解除キー番号が必要です。解除キー番号の取得方法は、WV-ASM300UX に付属する「起動情報案内カード」をお読みください。

#### 重要

- ライセンスの登録を有効にするには [登録] ボタンをクリックする必要があります。また、ライセンスの登録には本ソフトウェアの再起動が発生します。
- 本ソフトウェアのライセンスを登録する際には、必ず本ソフトウェアをご使用になる PC 上で行ってください。

#### STEP1

設定画面の [ライセンス登録] ボタンをクリックします。

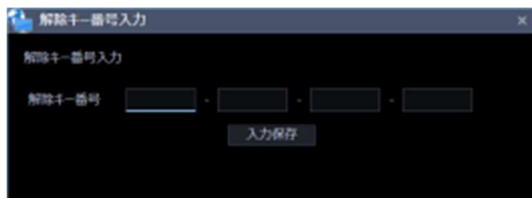
→ ライセンス登録画面が表示されます。



## STEP2

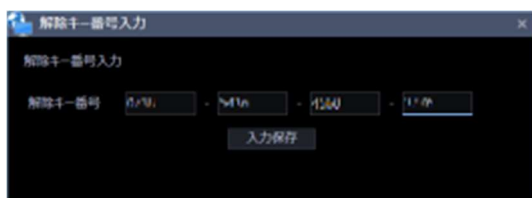
[追加] ボタンをクリックします。

→ 解除キー番号入力画面が表示されます。



## STEP3

解除キー番号を入力します。キー管理システムから取得した解除キー番号を入力します。



## STEP4

[入力保存] ボタンをクリックします。

### 重要

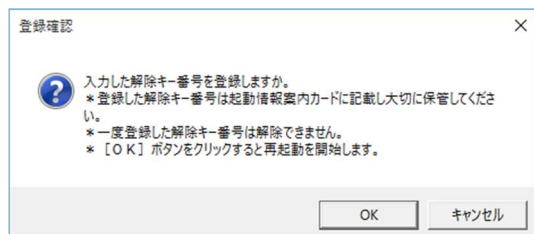
- 入力保存だけでは未だライセンスの登録は完了していません。必ずライセンス登録画面上の [登録] ボタンをクリックしてください。
- [登録] ボタンをクリックせずに他の画面に切り換える、または設定画面を閉じた場合、入力した解除キー番号は消去されます。

## STEP5

入力された解除キー番号の情報を確認し、[登録] ボタンをクリックします。

## STEP6

[OK] ボタンをクリックします。登録を中止する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。



### 重要

- 一度登録された解除キー番号は本ソフトウェア上で解除することができません。登録に間違いがないか必ず確認してください。
- [OK] ボタンをクリックすると自動的に本ソフトウェアが再起動されます。

## 3.2. 基本設定

### 3.2.1. サーバー証明書を登録する

- 外部制御機能を使用するためには、はじめにサーバー証明書を本ソフトウェアに登録する必要があります。
- サーバー証明書にはお客様と認証機関の間で取得していただく CA (Certification Authority) 証明書と動作確認用として本ソフトウェアで一時的に発行する自己証明書があります。
- サーバー証明書を登録することで本ソフトウェアへのアクセスを SSL により暗号化し、通信の安全性を高めることができます。

#### 重要

- 外部制御機能を通常運用で使用する場合は、必ず信頼できる認証機関が発行した CA 証明書を登録してください。
- 自己証明書は動作確認用としてのみ使用してください。自己証明書で運用を続けるとセキュリティ上の危険性が高くなります。

#### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[基本設定] タブをクリックして基本設定画面を表示します。

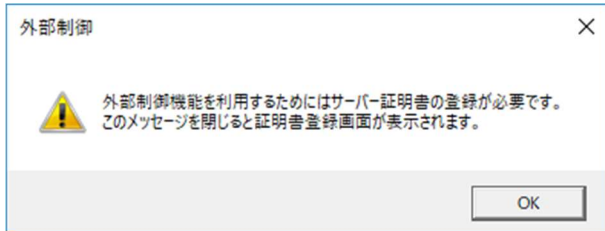
#### STEP2

外部制御機能は初期設定ではオフ (無効) となっています。外部制御機能を利用するために [外部制御] をオンに変更します。

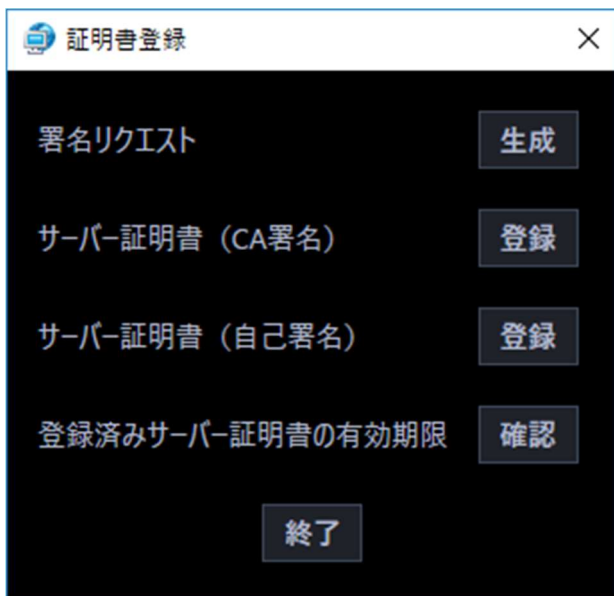


### STEP3

サーバー証明書が未登録の場合、[外部制御] をオンにすると警告メッセージが表示されます。  
[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じます。



→ 警告メッセージを閉じると証明書登録画面が表示されます。  
(「CertificateTool.exe」の起動に関して警告が表示された場合は許可してください。)



以降の章の手順に従って証明書の登録を行ってください。証明書登録画面の説明は以下の通りです。

#### ■ 署名リクエスト

認証機関に CA 証明書の発行を申請するために必要な署名リクエスト (CSR : Certificate Signing Request) ファイルを生成します。

#### ■ サーバー証明書 (CA 署名)

認証機関が発行した CA 証明書を本ソフトウェアに登録します。

## ■ サーバー証明書（自己署名）

動作確認用の自己証明書を生成して本ソフトウェアに登録します。

## ■ 登録済みサーバー証明書の有効期限

登録済みのサーバー証明書の有効期限を表示します。

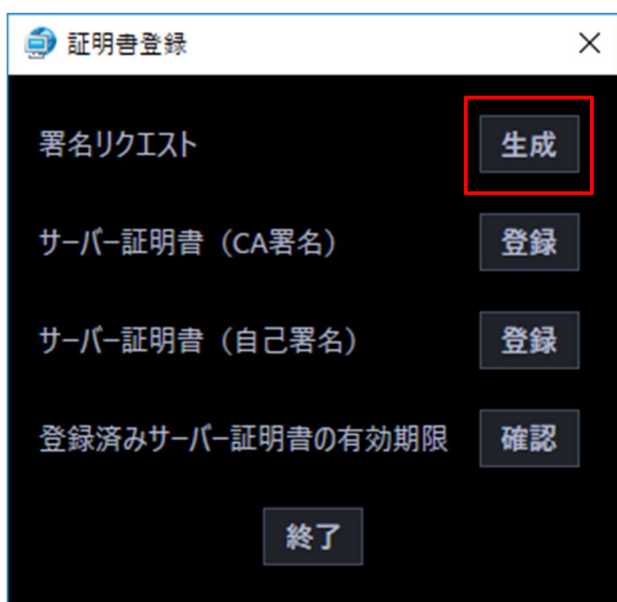
### 3.2.1.1. 署名リクエスト（CSR）の生成

認証機関に CA 証明書の発行を申請するために必要な署名リクエスト（CSR）ファイルを生成します。

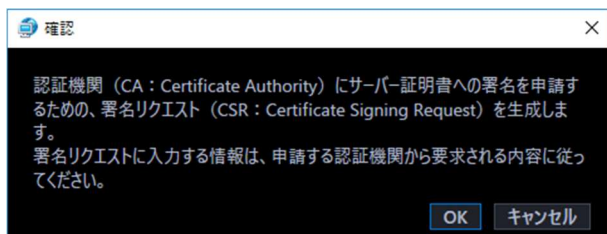
発行された CA 証明書は署名リクエストを生成した PC でしか使用できません。

#### STEP1

証明書登録画面の署名リクエストの [生成] ボタンをクリックします。



→ 確認メッセージが表示されます。

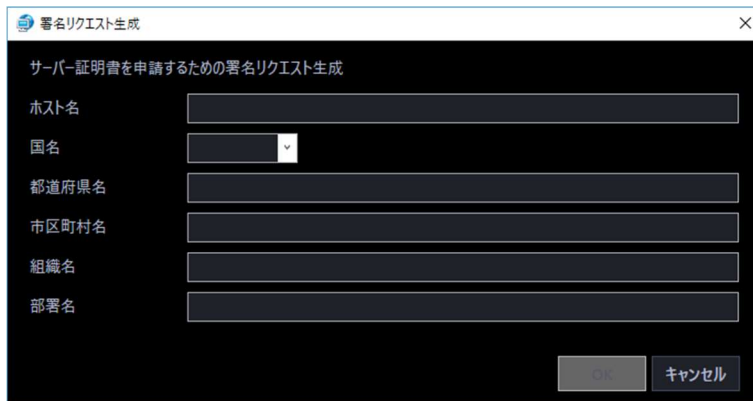




## STEP2

内容を確認後、[OK] ボタンをクリックして確認メッセージを閉じます。

→ 署名リクエスト生成画面が開きます。



## STEP3

各項目に申請する証明書の情報を入力します。

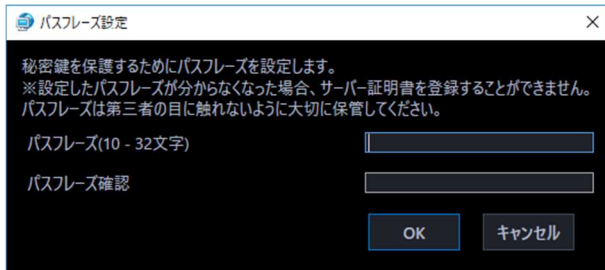
<b>重要</b> <ul style="list-style-type: none"><li>入力する情報は申請する認証機関から要求される内容にしたがってください。</li></ul>
---

項目	説明	入力可能文字	入力可能文字数
ホスト名	本ソフトウェアをインストールしているPCのアドレスもしくはホスト名を入力します。	0~9 (半角)、 A~Z (半角)、 a~z (半角)、 -._, +/() (半角)、 半角スペース	1文字以上、64文字以内
国名	国別記号を入力します。直接文字入力するかコンボボックスから選択します。 ※日本国内で使用する場合 [JP] を選択してください。	プルダウンメニューから選択	2文字：国名コード
都道府県名	都道府県名を入力します。	0~9 (半角)、	1文字以上、128文字以内
市区町村名	市区町村名を入力します。	A~Z (半角)、	1文字以上、128文字以内
組織名	組織名を入力します。	a~z (半角)、	1文字以上、64文字以内
部署名	部署名を入力します。	-._, +/() (半角)、 半角スペース	0文字以上、128文字以内

#### STEP4

[OK] ボタンをクリックします。

→ パスフレーズ設定画面が表示されます。



#### STEP5

CA 証明書の発行後、本ソフトウェアに登録する際に必要になるパスワードを設定します。

##### 重要

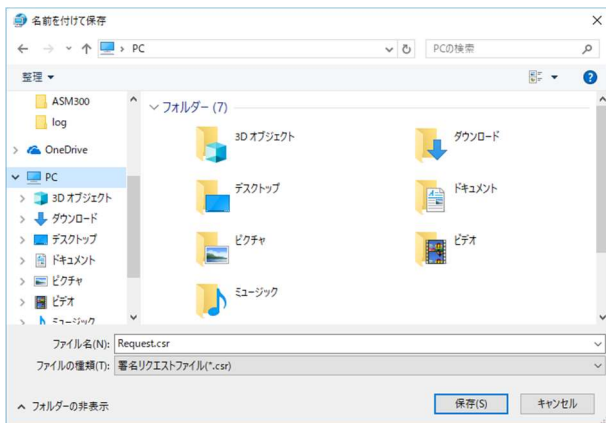
- 設定したパスワードが分からなくなった場合、サーバー証明書を登録することができません。パスワードは第三者の目に触れないように大切に保管してください。

項目	説明	入力可能文字	入力可能文字数
パスワード	パスワードを入力します。 入力したパスワードは「●」で表示されます。	0～9 (半角)、 A～Z (半角)、	10 文字以上、32 文字以内
パスワード 確認	設定するパスワードを再度入力します。パス ワードの入力ミスをチェックします。 入力したパスワードは「●」で表示されます。	a～z (半角)、 -._,+/( ) (半角)、 半角スペース	

#### STEP6

[OK] ボタンをクリックします。

→ ファイル保存画面が表示されます。



## STEP7

署名リクエストにファイル名を付け、任意のフォルダーに保存します。

→ 保存した署名リクエストを使用して認証機関に CA 証明書の発行を申請してください。

### 重要

- 生成した署名リクエストを基に CA 証明書が発行されます。署名リクエストを認証機関へ提出した後、再度署名リクエストを生成すると、発行される CA 証明書が使用できなくなります。

## 3.2.1.2. CA 証明書の登録

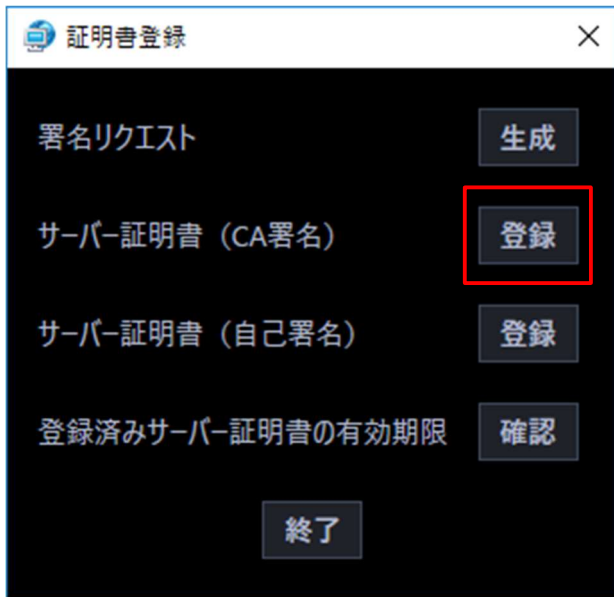
認証機関が発行した CA 証明書を本ソフトウェアに登録します。

### 重要

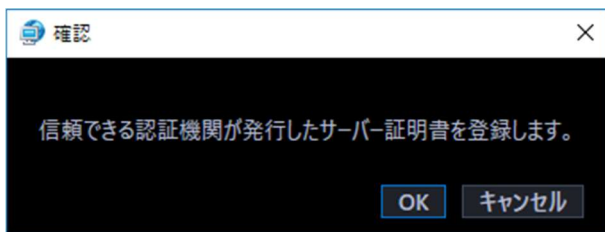
- 署名リクエストが生成されていない場合、認証機関で発行された CA 証明書を登録することはできません。

## STEP1

証明書登録画面のサーバー証明書 (CA 署名) の [登録] ボタンをクリックします。



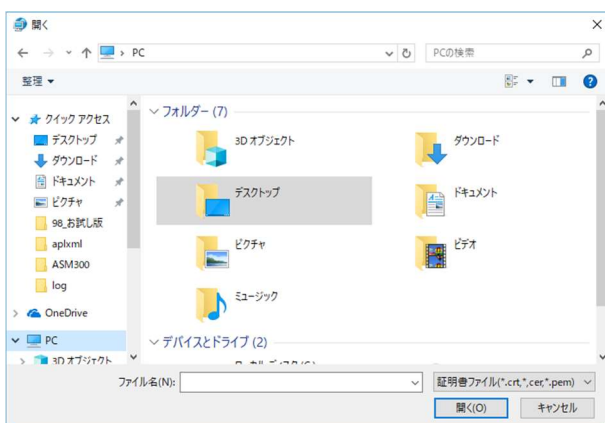
→ 確認メッセージが表示されます。



## STEP2

内容を確認後、[OK] ボタンをクリックして確認メッセージを閉じます。

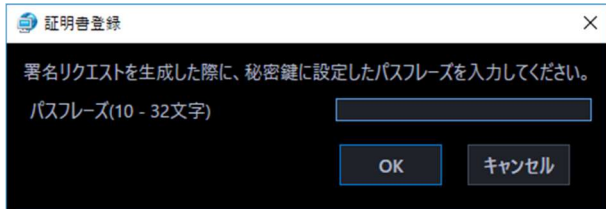
→ ファイル選択画面が表示されます。



### STEP3

証明書ファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。

→ パスフレーズ入力画面が表示されます。



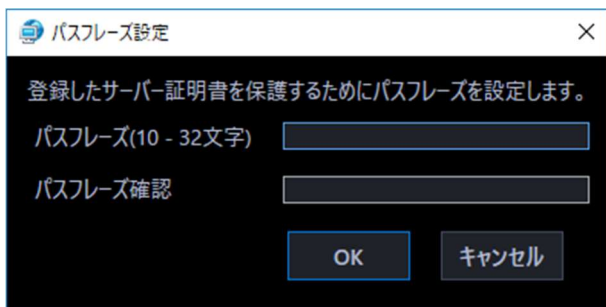
### STEP4

署名リクエスト生成時に設定したパスフレーズを入力します。

### STEP5

[OK] ボタンをクリックします。

→ サーバー証明書（CA 証明書）のパスフレーズ設定画面が表示されます。



### STEP6

CA 証明書を本ソフトウェアに登録後、第三者に証明書が不正利用されないようにパスフレーズを設定します。

#### 重要

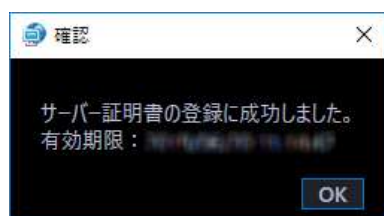
- パスフレーズは第三者の目に触れないように大切に保管してください。

項目	説明	入力可能文字	入力可能文字数
パスワード	パスワードを入力します。 入力したパスワードは「●」で表示されます。	0～9 (半角)、 A～Z (半角)、 a～z (半角)、 -._,+/( ) (半角)、 半角スペース	10文字以上、32文字以内
パスワード確認	設定するパスワードを再度入力します。パスワードの入力ミスをチェックします。 入力したパスワードは「●」で表示されます。		

## STEP7

[OK] ボタンをクリックします。

→ CA 証明書の登録が完了します。

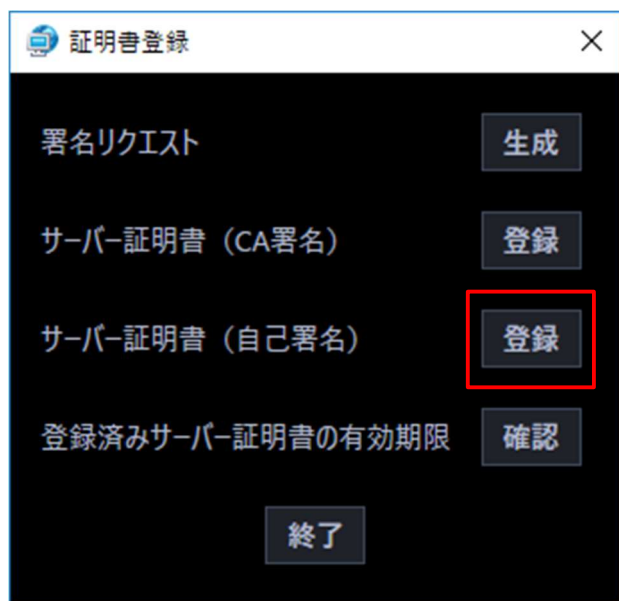


### 3.2.1.3. 自己証明書の登録

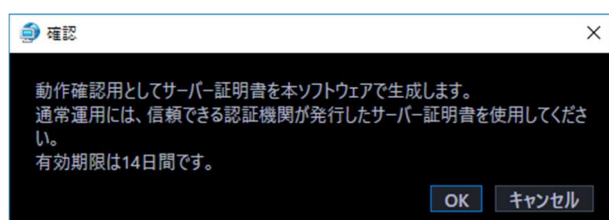
動作確認用に本ソフトウェアで一時的にサーバー証明書を生成して登録します。

#### STEP1

証明書登録画面のサーバー証明書（自己署名）の [登録] ボタンをクリックします。



→ 確認メッセージが表示されます。



#### STEP2

[OK] ボタンをクリックします。

→ 自己証明書生成画面が表示されます。

### STEP3

各項目に生成する証明書の情報を入力します。

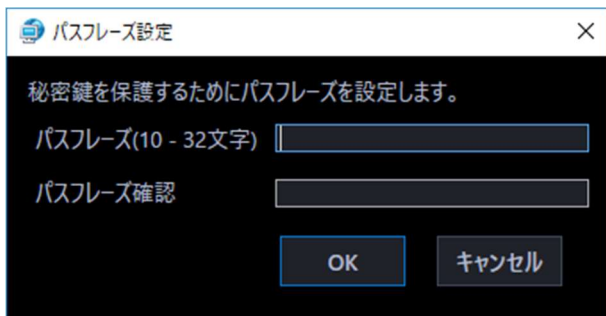
項目	説明	入力可能文字	入力可能文字数
ホスト名	本ソフトウェアをインストールしているPCのアドレスもしくはホスト名を入力します。	0～9（半角）、 A～Z（半角）、 a～z（半角）、 -._,+/( )（半角）、 半角スペース	1文字以上、64文字以内
国名	国別記号を入力します。直接文字入力するかコンボボックスから選択します。 ※日本国内で使用する場合 [JP] を選択してください。	プルダウンメニューから選択	2文字：国名コード
都道府県名	都道府県名を入力します。	0～9（半角）、 A～Z（半角）、 a～z（半角）、 -._,+/( )（半角）、 半角スペース	1文字以上、128文字以内
市区町村名	市区町村名を入力します。		1文字以上、128文字以内
組織名	組織名を入力します。		1文字以上、64文字以内
部署名	部署名を入力します。		0文字以上、128文字以内

### STEP4

[OK] ボタンをクリックします。

→ パスフレーズ設定画面が表示されます。





## STEP5

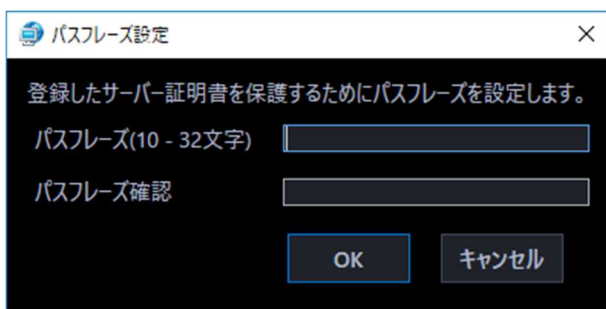
自己証明書を本ソフトウェアに登録する際に使用するパスワードを設定します。

項目	説明	入力可能文字	入力可能文字数
パスワード	パスワードを入力します。 入力したパスワードは「●」で表示されます。	0～9 (半角)、 A～Z (半角)、	10文字以上、32文字以内
パスワード確認	設定するパスワードを再度入力します。パスワードの入力ミスをチェックします。 入力したパスワードは「●」で表示されます。	a～z (半角)、 -._,+/( ) (半角)、 半角スペース	

## STEP6

[OK] ボタンをクリックします。

→ サーバー証明書 (自己証明書) のパスワード設定画面が表示されます。



## STEP7

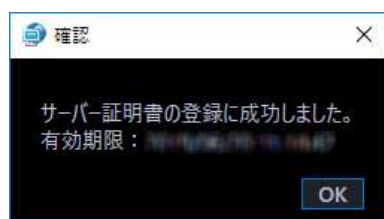
自己証明書を本ソフトウェアに登録後、第三者に証明書が不正利用されないようにパスワードを設定します。

項目	説明	入力可能文字	入力可能文字数
パスワード	パスワードを入力します。 入力したパスワードは「●」で表示されます。	0～9 (半角)、 A～Z (半角)、 a～z (半角)、 -._,+/( ) (半角)、 半角スペース	10 文字以上、32 文字以内
パスワード 確認	設定するパスワードを再度入力します。パス ワードの入力ミスをチェックします。 入力したパスワードは「●」で表示されます。		

## STEP8

[OK] ボタンをクリックします。

→ 自己証明書の登録が完了します。



## 重要

- 自己証明書の有効期限は 14 日間です。
- 自己証明書は動作確認用としてのみ使用してください。自己証明書で運用を続けるとセキュリティ上の危険性が高くなります。

### 3.2.2. サーバー証明書の有効期限を確認する

本ソフトウェアに登録済みのサーバー証明書の有効期限を確認します。

#### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[基本設定] タブをクリックして基本設定画面を表示します。

#### STEP2

[外部制御] と [SSL] がいずれもオンとなっていることを確認します。



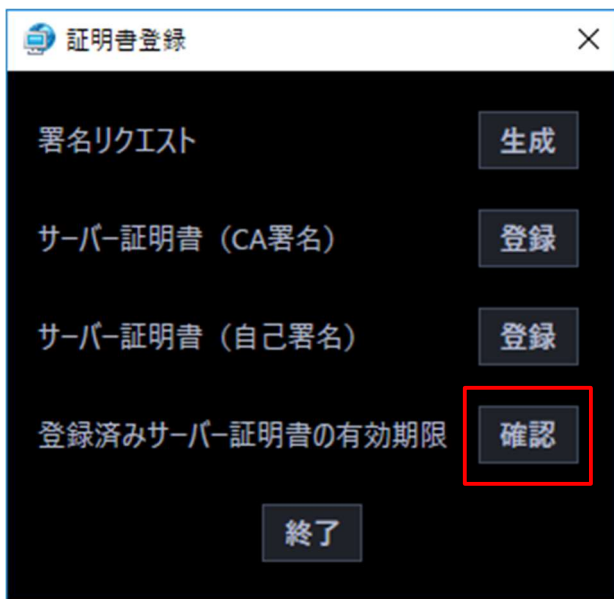
#### STEP3

[証明書登録] ボタンをクリックします。

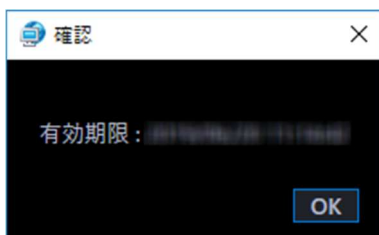
→ 証明書登録画面が表示されます。

#### STEP4

登録済みサーバー証明書の有効期限の [確認] ボタンをクリックします。



→ サーバー証明書の有効期限表示画面が表示されます。



### 3.2.3. 基本設定をする

サーバー証明書を本ソフトウェアに登録後、外部制御機能を利用するために必要な基本設定を行います。

#### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[基本設定] タブをクリックして基本設定画面を表示します。

→ 外部制御機能の基本設定画面が表示されます。



画面の説明は以下の通りです。

#### ■ 外部制御

本ソフトウェアで外部制御機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ オン：外部制御機能を使用します。
- ・ オフ：外部制御機能を使用しません。

初期設定：オフ

#### 重要

- ・ [外部制御] がオフの場合、それ以降の設定項目は全て入力できません。
- ・ [外部制御] をオフからオンへ変更したとき、本ソフトウェアにサーバー証明書が未登録の場合はサーバー証明書登録画面を表示します。

## ■ SSL ([オン] / [オフ] ボタン)

外部制御機能を SSL で通信するかどうかを設定します。

- ・ オン：外部制御機能利用時に SSL で通信します。
- ・ オフ：外部制御機能利用時に SSL で通信をしません。

初期設定：オン

### 重要

- ・ SSL をオンに設定すると、本ソフトウェアに登録しているサーバー証明書を使用して通信を暗号化します。
- ・ SSL をオフに設定すると、ネットワーク上で第三者からの不正アクセスによるプライバシーや肖像権の侵害、情報漏えい、不正操作の危険性が高くなります。

## ■ SSL ([証明書登録] ボタン)

証明書登録画面を表示します。[SSL] がオフの場合はクリックできません。

## ■ ポート番号

外部制御機能で使用するポート番号を設定します。設定可能なポート番号は 1 ～ 65535 です。

初期設定：[SSL] がオンの場合 443、[SSL] がオフの場合 80

## ■ ユーザー認証

外部制御機能使用時、本ソフトウェアへのアクセスでユーザー認証をするかどうかを設定します。

- ・ オン：ユーザー認証を行います。
- ・ オフ：ユーザー認証を行いません。

初期設定：オン

### 重要

- ・ ユーザー認証をオフにすると、なりすまし、改ざん、盗聴といったセキュリティ上の脅威に常に晒されることとなります。

## ■ ユーザー名

外部制御機能使用時、ユーザー認証で使用するユーザー名を設定します。

ユーザー名は半角英数字 4 文字以上 32 文字以内で入力します。また、記号、特殊文字は使用できません。[ユーザー認証] オフの場合は入力できません。

初期設定：空欄

## ■ パスワード

外部制御機能使用時、ユーザー認証で使用するパスワードを設定します。

入力したパスワードは「●」で表示されます。パスワードは半角英数字 8 文字以上 32 文字以内で入力します。また、下記 4 つの文字種類から 3 つ以上を含む必要があります。

- ・ アルファベット大文字
- ・ アルファベット小文字
- ・ 数字
- ・ 特殊文字(!#\$%&'()-=^~¥|@`[]{}+\*,.<>/?\_)

[ユーザー認証] オフの場合は入力できません。

初期設定：空欄

### 重要

- ・ 「”&:;」およびスペースを使用できません。
- ・ 「ユーザー名」と同じ文字列からなるパスワードを設定できません。
- ・ パスワードはセキュリティを確保するため、定期的に変更してください。
- ・ ユーザー名、パスワードは第三者の目に触れないように大切に保管してください。

## ■ パスワード確認

登録するパスワードを入力します。パスワードの入カミスをチェックします。

入力したパスワードは「●」で表示されます。

初期設定：空欄

## ■ 認証方式

外部制御機能使用時、ユーザー認証で使用する認証方式を設定します。

- ・ Digest：ダイジェスト認証を使用します。
- ・ Digest or Basic：ダイジェスト認証またはベーシック認証を使用します。

初期設定：Digest

## ■ システム終了コマンド実行許可(ASM300 終了 / PC 終了 / PC 再起動)

外部制御機能使用時、以下 3 つのコマンドを本ソフトウェアが受信した際にそれを実行するかどうかを設定します。

ASM300 終了：本ソフトウェアを終了します。

PC 終了：本ソフトウェアをインストールしている PC を終了します。

PC 再起動：本ソフトウェアをインストールしている PC を再起動します。

- ・ オン：コマンドを実行します。
- ・ オフ：コマンドを実行しません。

初期設定：オフ

## ■ 【設定保存】ボタン

設定された内容を保存します。

## STEP2

情報を入力して【設定保存】ボタンをクリックします。



### 3.3. カメラ番号を設定する

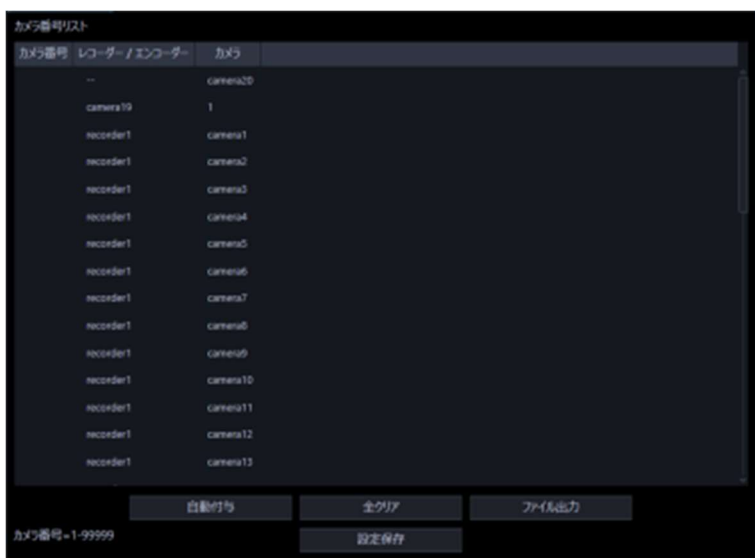
あらかじめ機器登録されているカメラ名に対して外部制御機能で使用するカメラ番号を設定します。カメラ設定で「4ストリーム/クロッピングモード」設定が「オン」の場合、カメラ名は「CHタイトル」を表示します。

#### 3.3.1. カメラ番号を手動設定する

##### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[カメラ番号設定] タブをクリックします。

→ カメラ番号設定画面が表示されます。



画面の説明は以下のとおりです。

##### ■ 【自動付与】 ボタン

リスト表示されている順にカメラ番号を 1 から連番で自動付与します。

## ■ [全クリア] ボタン

リストに表示されているカメラ番号をすべてクリアします。

## ■ [ファイル出力] ボタン

リストに表示されている内容を CSV 形式で保存します。

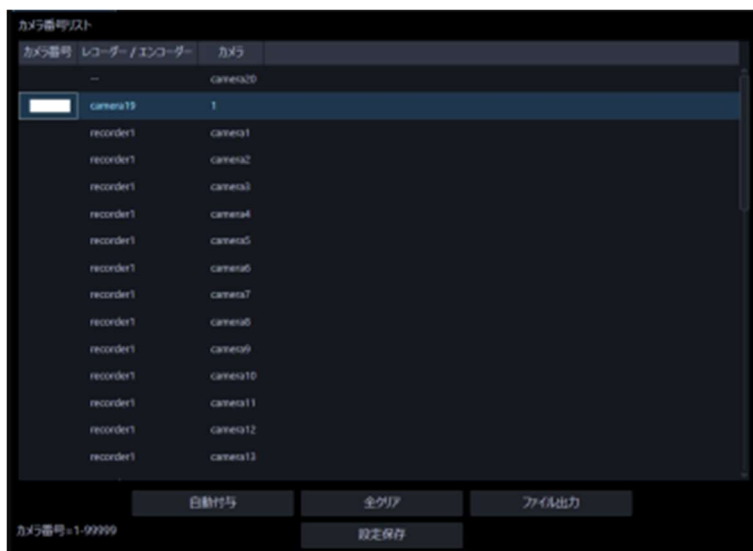
## ■ [設定保存] ボタン

設定された内容を保存します。

## STEP2

設定したいカメラ名のリストを選択し、カメラ番号領域をクリックします。

→ 入力可能な状態になります。



## STEP3

設定したいカメラ番号を入力します。入力可能な範囲は 1～99999 です。

## STEP4

[設定保存] ボタンをクリックします。

### 3.3.2. カメラ番号を自動設定する

#### STEP1

カメラ番号設定画面を表示します。

#### STEP2

[自動付与] ボタンをクリックします。

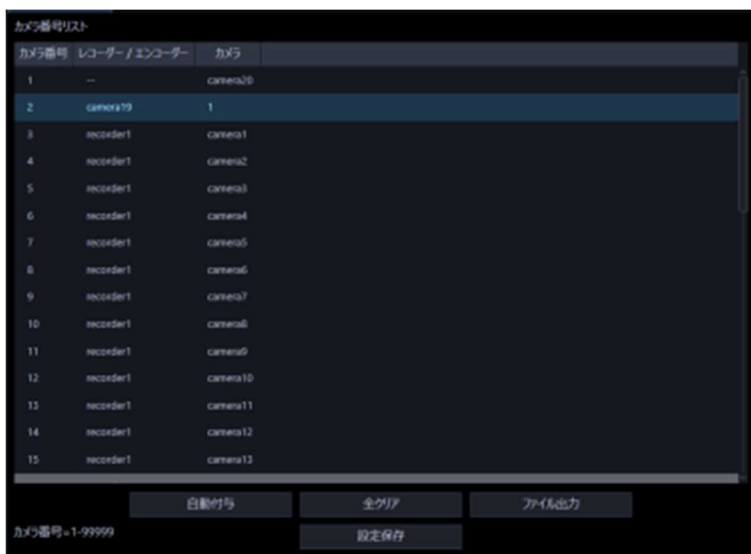
→ カメラ番号自動付与確認画面が表示されます。



#### STEP3

[OK] ボタンをクリックします。

→ 表示しているリスト順にカメラ番号を自動的に付与します。



#### STEP4

[設定保存] ボタンをクリックします。

### 3.3.3. カメラ番号リストをファイル出力する

#### STEP1

カメラ番号設定画面を表示します。

#### STEP2

[ファイル出力] ボタンをクリックします。

→ 名前を付けて保存画面が表示されます。

#### STEP3

保存先を指定して、[保存(S)] ボタンをクリックします。

→ カメラ番号リストを CSV 形式で保存します。

## 3.4. グループ番号を設定する

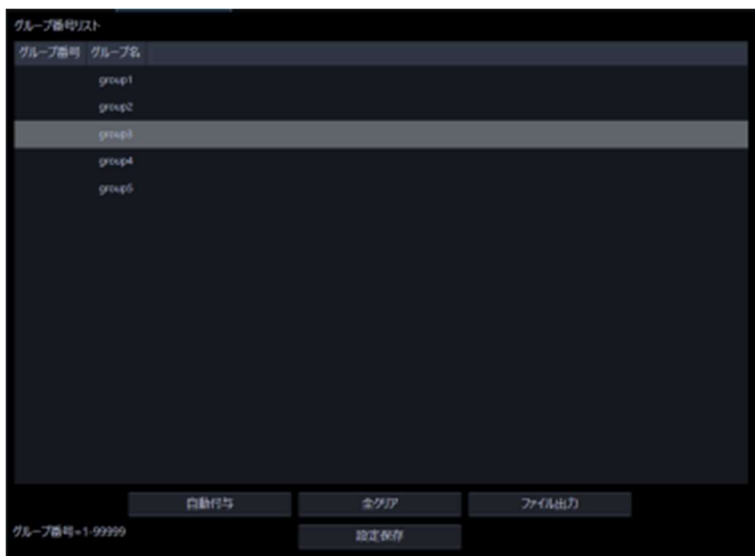
あらかじめグループ登録されているグループ名に対して外部制御機能で使用するグループ番号を設定します。ただし、個人用グループにはグループ番号を設定することはできません。そのため、個人用グループを外部制御から選択することはできません。

### 3.4.1. グループ番号を手動設定する

#### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[グループ番号設定] タブをクリックします。

→ グループ番号設定画面が表示されます。



画面の説明は以下のとおりです。

#### ■ [自動付与] ボタン

リスト表示されている順にグループ番号を 1 から連番で自動付与します。

#### ■ [全クリア] ボタン

リストに表示されているグループ番号をすべてクリアします。

#### ■ [ファイル出力] ボタン

リストに表示されている内容を CSV 形式で保存します。

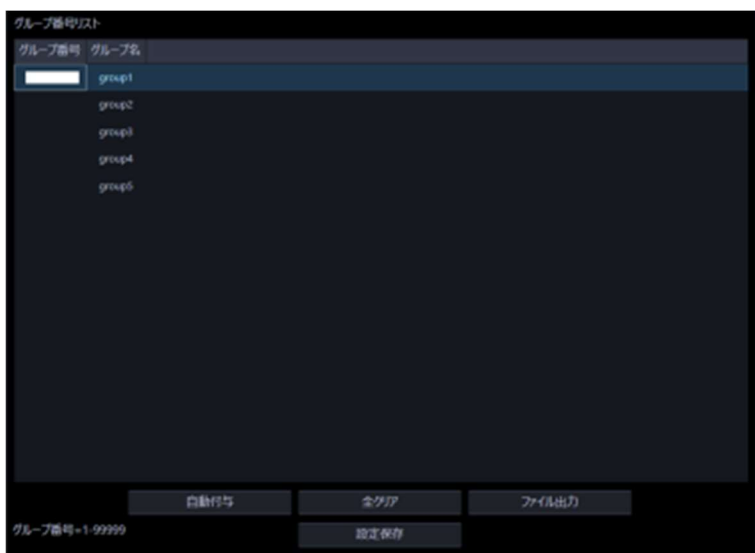
## ■ 【設定保存】 ボタン

設定された内容を保存します。

### STEP2

設定したいグループ名のリストを選択し、グループ番号領域をクリックします。

→ 入力可能な状態になります。



### STEP3

設定したいグループ番号を入力します。

入力可能な範囲は 1～99999 です。

### STEP4

【設定保存】 ボタンをクリックします。

## 3.4.2. グループ番号を自動設定する

### STEP1

グループ番号設定画面を表示します。

### STEP2

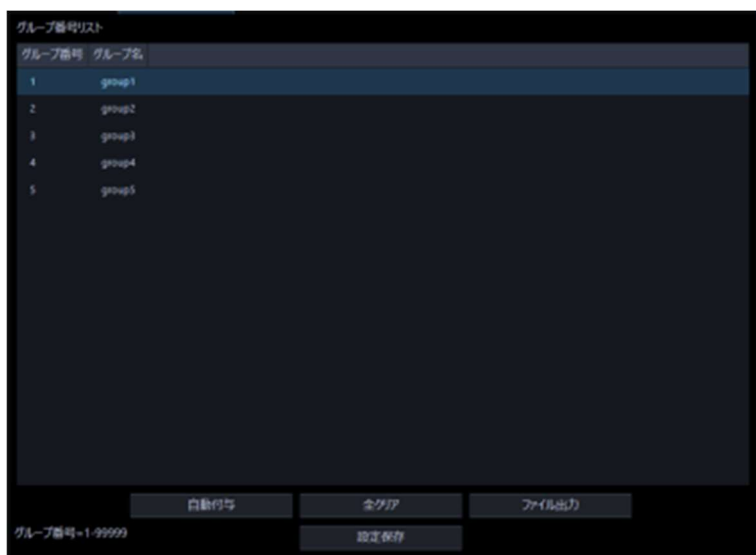
[自動付与] ボタンをクリックします。

→ グループ番号自動付与確認画面が表示されます。

### STEP3

[OK] ボタンをクリックします。

→ 表示しているリスト順にグループ番号を自動的に付与します。



### STEP4

[設定保存] ボタンをクリックします。

### 3.4.3. グループ番号リストをファイル出力する

#### STEP1

グループ番号設定画面を表示します。

#### STEP2

[ファイル出力] ボタンをクリックします。

→ 名前を付けて保存画面が表示されます。

#### STEP3

保存先を指定して、[保存(S)] ボタンをクリックします。

→ グループ番号リストを CSV 形式で保存します。



## 3.5. シーケンス番号を設定する

あらかじめシーケンス登録されているシーケンス名に対して外部制御機能で使用するシーケンス番号を設定します。

### 3.5.1. シーケンス番号を手動設定する

#### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[シーケンス番号設定] タブをクリックします。

→ シーケンス番号設定画面が表示されます。



画面の説明は以下のとおりです。

#### ■ [自動付与] ボタン

リスト表示されている順にシーケンス番号を 1 から連番で自動付与します。

#### ■ [全クリア] ボタン

リストに表示されているシーケンス番号をすべてクリアします。

### ■ 【ファイル出力】 ボタン

リストに表示されている内容を CSV 形式で保存します。

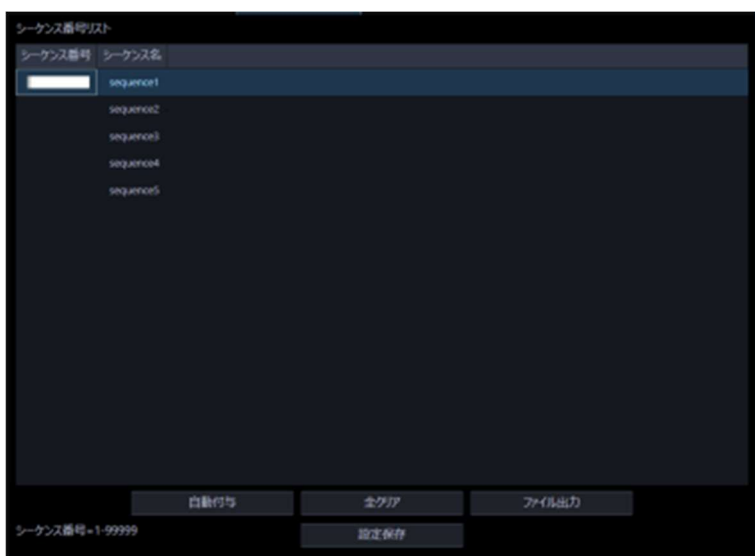
### ■ 【設定保存】 ボタン

設定された内容を保存します。

## STEP2

設定したいシーケンス名のリストを選択し、シーケンス番号領域をクリックします。

→ 入力可能な状態になります。



## STEP3

設定したいシーケンス番号を入力します。入力可能な範囲は 1~99999 です。

## STEP4

【設定保存】 ボタンをクリックします。

## 3.5.2. シーケンス番号を自動設定する

### STEP1

シーケンス番号設定画面を表示します。

### STEP2

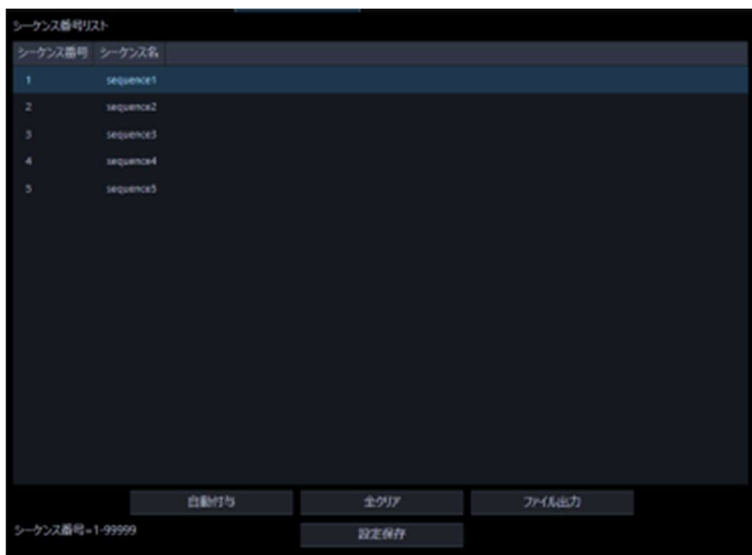
[自動付与] ボタンをクリックします。

→ シーケンス番号自動付与確認画面が表示されます。

### STEP3

[OK] ボタンをクリックします。

→ 表示しているリスト順にシーケンス番号を自動的に付与します。



### STEP4

[設定保存] ボタンをクリックします。

### 3.5.3. シーケンス番号リストをファイル出力する

#### STEP1

シーケンス番号設定画面を表示します。

#### STEP2

[ファイル出力] ボタンをクリックします。  
→ 名前を付けて保存画面が表示されます。

#### STEP3

保存先を指定して、[保存(S)] ボタンをクリックします。  
→ シーケンス番号リストを CSV 形式で保存します。

## 3.6. アクセスログ

外部制御機能による本ソフトウェアへのアクセス履歴をログとして記録することができます。

### 重要

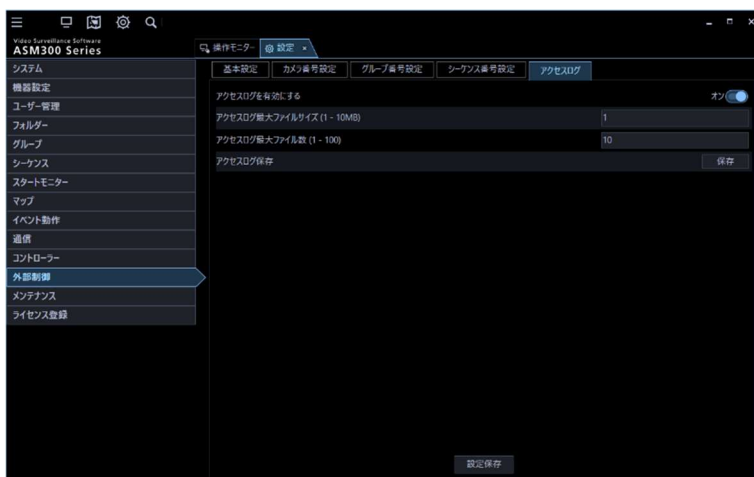
- アクセスログは定期的に確認して不正なアクセスがないか確認してください。

### 3.6.1. アクセスログに関する設定をする

#### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[アクセスログ] タブをクリックします。

→ アクセスログの設定画面が表示されます。



画面の説明は以下の通りです。

#### ■ アクセスログを有効にする

外部制御機能のアクセスログを記録するかどうかを設定します。

- オン：アクセスログを記録します。
- オフ：アクセスログを記録しません。

初期設定：オン

#### ■ アクセスログ最大ファイルサイズ (1 - 10MB)

アクセスログの1ファイルあたりのサイズ(MB)を設定します。入力可能な範囲は1~10です。

アクセスログのファイルサイズが設定したサイズを超過すると、新しいログファイルを生成して記録を続行します。

初期設定：10

#### ■ アクセスログ最大ファイル数 (1 - 100)

アクセスログファイルの保存数を設定します。入力可能な範囲は1~100です。

アクセスログのファイル保存数が設定した数を超過すると、最も古いログファイルを削除して記録を続行します。

初期設定：10

#### ■ アクセスログ保存

アクセスログを LOG 形式のファイルで保存します。

### STEP2

情報を入力して [設定保存] ボタンをクリックします。

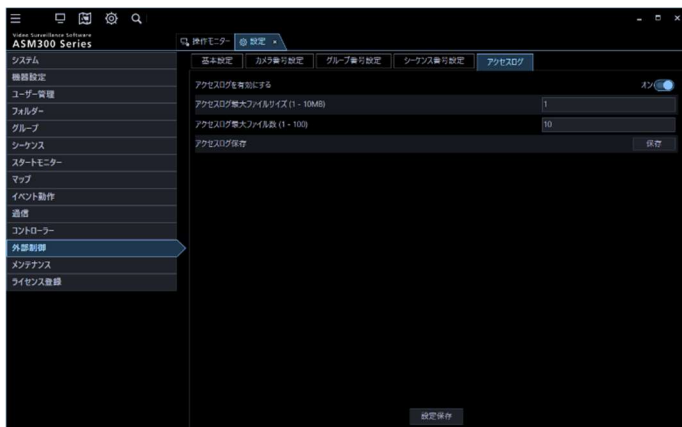
## 3.6.2. アクセスログをファイル出力する

外部制御機能による本ソフトウェアへのアクセス履歴をログとして指定したフォルダーに保存します。

### STEP1

設定画面の [外部制御] ボタンをクリックし、[アクセスログ] タブをクリックします。

→ アクセスログの設定画面が表示されます。



### STEP2

アクセスログ保存の [保存] ボタンをクリックします。

→ 保存先選択画面が表示されます。

### STEP3

アクセスログの保存先のフォルダーを選択して [OK] ボタンをクリックします。

→ アクセスログが LOG 形式で保存されます。

保存される LOG ファイルについての説明は以下の通り。

#### ■ LOG ファイル名

保存されたアクセスログのファイル名は以下のように付与されます。

- 最新のファイル : access\_log.log
- 最大ファイルサイズを超過したファイル : access\_log\_yyyy-mm-dd hh-mm-ss.log

最後にログを記録した日時がファイル名の末尾に付与されます。

例) 最後に記録した日時が 2019 年 10 月 26 日 21 時 34 分 05 秒の場合

access\_log\_2019-10-26 21-34-05.log

## ■ LOG ファイルのフォーマット

```
{TITLE}-"{IP ADDRESS}"-{DATE} "{METHOD} {CGI} HTTP/{VERSION}"
"{HTTP STATUS}" "{USER AGENT}" "{ETC},{OPE},{LIVE1},{LIVE2},{LIVE3},{LIVE4}"
```

アクセスログの各項目の説明は以下の通り。

項目	説明
{TITLE}	ログの記録内容に関わるプロトコル "HTTP"または"TCP"と表示します。
{IP ADDRESS}	外部接続機能により本ソフトウェアに CGI コマンドを送信したクライアントの IP アドレスと受信ポート番号 例) 192.168.0.1:63585
{DATE}	本ソフトウェアが CGI を受信した日時 例) 2019 年 10 月 26 日 21 時 34 分 05.001 秒の場合 : 20191026213405001
{METHOD}	CGI コマンドのリクエストメソッド "GET"または"HEAD"と表示します。
{CGI}	本ソフトウェアが受信した CGI コマンド 例) /cgi-bin/dispCtl?MON=ope&POS1=CAM1
HTTP/{VERSION}	CGI コマンドのリクエストバージョン 例) HTTP/1.1
{HTTP STATUS}	本ソフトウェアがクライアントへ応答したステータスコード 例) 200 OK
{USER AGENT}	ユーザーエージェント名 例) クライアントが Internet Explorer の場合 Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; WOW64; Trident/7.0; Touch; rv:11.0) like Gecko
{ETC},	操作モニターとライブモニター以外で異常が発生した際にレスポンスコード(※)を表示します。
{OPE}	操作モニターが操作対象として選択されているときの CGI コマンドの受信結果をレスポンスコード(※)で表示します。
{LIVE1},	ライブモニター 1 が操作対象として選択されているときの CGI コマンドの受信結果をレスポンスコード(※)で表示します。
{LIVE2},	ライブモニター 2 が操作対象として選択されているときの CGI コマンドの受信結果をレスポンスコード(※)で表示します。
{LIVE3}	ライブモニター 3 が操作対象として選択されているときの CGI コマンドの受信結果をレスポンスコード(※)で表示します。



項目	説明
{LIVE4}	ライブモニター 4 が操作対象として選択されているときの CGI コマンドの受信結果をレスポンスコード(※)で表示します。

(※)レスポンスコードについては 4.6.2 章参照

#### アクセスログの例

HTTP-"172.18.0.114:56934"-20190528114852267 "GET /cgi-bin/dispCtl?MON=live1&CMDSEQ=stop HTTP/1.1" "200 OK" "Client" ",,SEQUENCE_STATE_ERROR,,,"
HTTP-"172.18.0.114:56936"-20190528114904639 "GET /cgi-bin/dispCtl?MON=ope&CMDSEQ=stop HTTP/1.1" "401 Unauthorized" "Client" ",,,,,,"
HTTP-"172.18.0.114:56937"-20190528114904742 "GET /cgi-bin/dispCtl?MON=ope&CMDSEQ=stop HTTP/1.1" "200 OK" "Client" ",OK,,,,,"
HTTP-"172.18.0.114:56940"-20190528114909271 "GET /cgi-bin/dispCtl?MON=live1&GSEQ=1&CMDSEQ=start&INTERVAL=5 HTTP/1.1" "401 Unauthorized" "Client" ",,,,,,"
HTTP-"172.18.0.114:56941"-20190528114909632 "GET /cgi-bin/dispCtl?MON=live1&GSEQ=1&CMDSEQ=start&INTERVAL=5 HTTP/1.1" "200 OK" "Client" ",,UNENABLED_SEQUENCE_ERROR,,,"

## 3.7. ファイアウォールの例外設定

外部制御機能などの外部との接続機能を使用可能にするためにファイアウォールの例外設定を行います。本書では Windows10 による設定の例を示します。

### STEP1

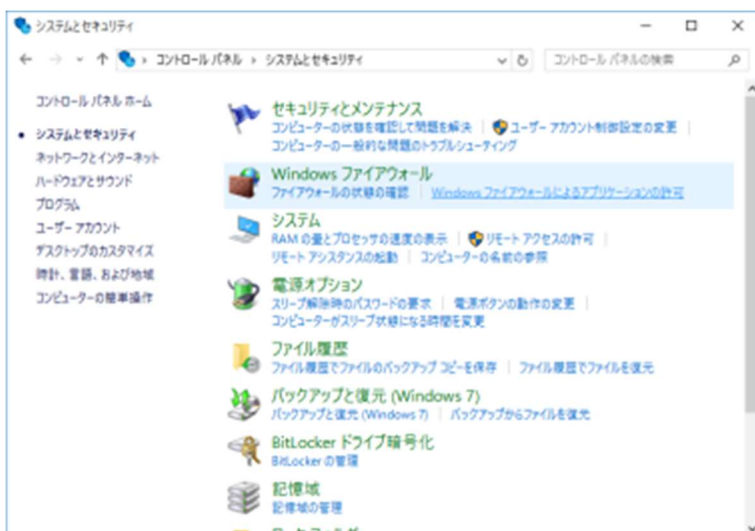
コントロールパネルの [システムとセキュリティ] をクリックします。



→ システムとセキュリティ画面が表示されます。

### STEP2

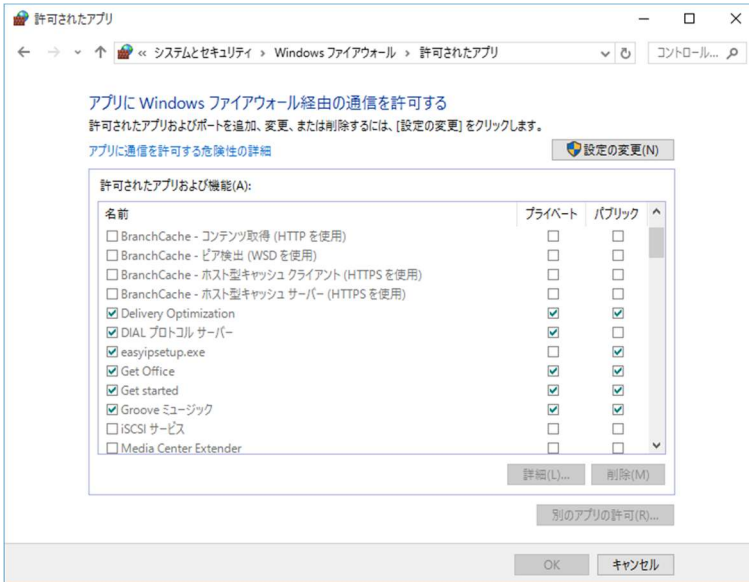
[Windows ファイアウォール] – [Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可] をクリックします。



→ 許可されたアプリ画面が表示されます。

### STEP3

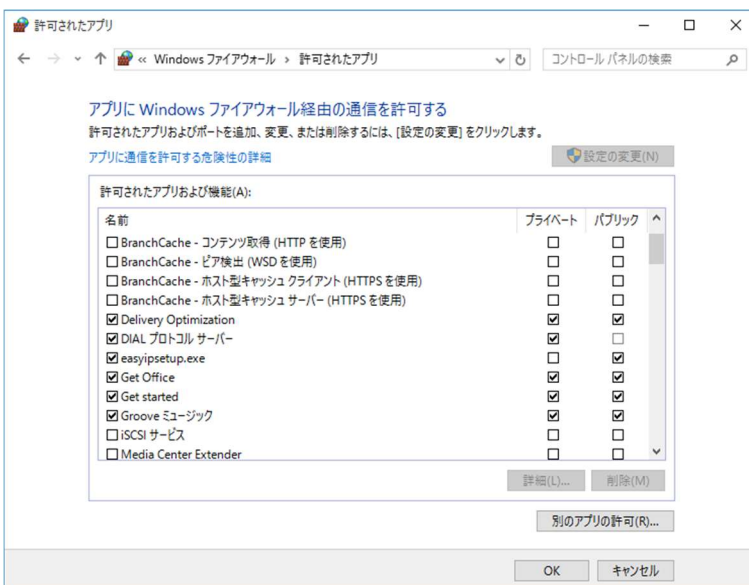
[設定の変更(N)...] ボタンをクリックします。



→ 設定の変更が可能になります。

### STEP4

[別のアプリの許可(R)...] ボタンをクリックします。

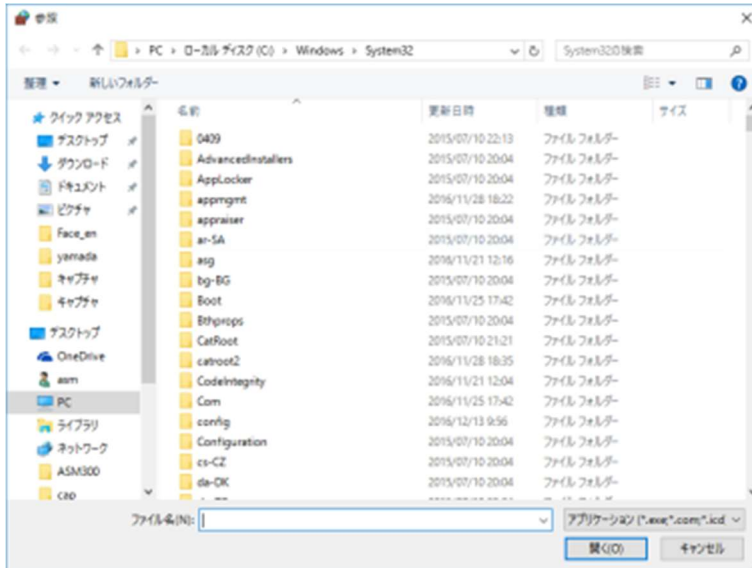


→ アプリの追加画面が表示されます。

## STEP5

[参照(B)...] ボタンをクリックします。

→ 参照画面が表示されます。



## STEP6

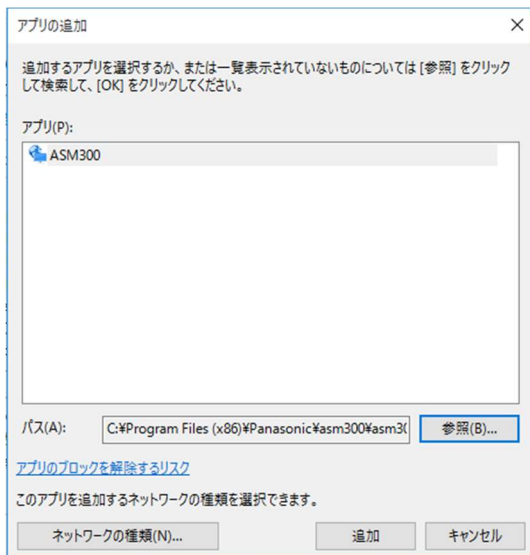
「asm300ope.exe」を選択し、「開く(O)」ボタンをクリックします。

### メモ

- 標準設定のままインストールすると、32bitOS の場合以下の場所に保存されています。  
C:¥Program Files¥i-PRO¥asm300
- 64bitOS の場合、「Program Files」は「Program Files (x86)」となります。

## STEP7

「asm300ope.exe」を選択し、[追加] ボタンをクリックします。



## STEP8

STEP4 ～ 7 の手順を行い、「asm300liveIP.exe」、「asm300srv.exe」、「asm300tlsrv.exe」、「ASMDownloadQueue.exe」、「ASDBService.exe」、「HttpReceiveService.exe」、「ファイルとプリンターの共有」も同様に登録します。

---

## メモ

- 標準設定のままインストールすると、32bitOS の場合それぞれ以下の場所に保存されています。

asm300liveIP.exe: "C:\Program Files\i-PRO\asm300"

asm300srv.exe: "C:\Program Files\i-PRO\asm300"

asm300tlsrv.exe: "C:\Program Files\i-PRO\asm300"

ASMDownloadQueue.exe: "C:\Program Files\i-PRO\asm300"

ASDBService.exe: "C:\Program Files\i-PRO\asm300"

HttpReceiveService.exe: "C:\Program Files\i-PRO\asm300"

- 64bitOS の場合、「Program Files」は「Program Files (x86)」となります。

---

## STEP9

[OK] ボタンをクリックします。

## 4. 運用

クライアントから本ソフトウェアに対して送信する CGI コマンドを示します。

### 重要

- CGI コマンドは HTTP プロトコルのメソッド「GET」もしくは「HEAD」で送信してください。その他のメソッドは非対応です。
- CGI コマンドとして文字列を送信する場合は URL エンコードしてください。
- 本ソフトウェアの設定と不整合が生じる CGI コマンドを送信した場合は処理が実行されません。
- 本ソフトウェアの状態によっては CGI コマンドを受け付けられない場合があります。その場合はレスポンスメッセージをご確認ください。

### 4.1. 画像表示を制御する

画像表示の制御には「dispCtl」コマンドを使用します。コマンドのフォーマットを以下に示します。

/cgi-bin/dispCtl?MON= {操作対象の画面} & {操作パラメーター1} & {操作パラメーター2} &...

- 操作対象となる画面はパラメーター「MON」で指定します。指定しない場合は操作モニターが対象となります。
- 「MON=\*\*」以降に「&」で操作パラメーターを複数指定することができます。
- 操作モニターとライブモニターは1つのコマンド中で同時に指定することができます。

例) 操作モニターとライブモニター1を指定する場合

/cgi-bin/dispCtl?MON=ope& {操作パラメーター1} & MON=live1& {操作パラメーター2}

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/dispCtl	MON	ope	操作モニターを操作対象に指定します。
		live1	ライブモニター1を操作対象に指定します。
		live2	ライブモニター2を操作対象に指定します。
		live3	ライブモニター3を操作対象に指定します。
		live4	ライブモニター4を操作対象に指定します。

### 4.1.1. 画面分割数を変更してカメラを表示する

操作モニターの画面分割数を変更し、表示エリアを指定してカメラを表示することができます。

※ 操作モニターでのみ動作します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/dispCtl	SCREEN	n : 画面分割数 (1,2A,2B,3A,3B,3C,4,4A, 4B,4C,4D,4E,5,6,6A,7,7A, 9,10,13,16,25,36,49,64)	画面分割数を指定します。
	POS1,POS2,...,POSn n:表示エリア (1~64)	CAM1,...,CAMn n:登録済カメラ番号 (1~99999)	表示エリアごとのカメラ番号を指定します。
		off	表示エリアごとの黒画表示を指定します。

例 1) 操作モニターの画面分割数を 16 に設定する

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&SCREEN=16>

例 2) 操作モニターの画像表示エリア 1 にカメラ 2 を表示する

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&POS1=CAM2>

例 3) 操作モニターの画面分割数を 4 に設定し、カメラ番号 1 ~ 4 をエリア 1 ~ 4 にそれぞれ表示する

[https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&SCREEN=4&POS1=CAM1&POS2=CAM2  
&POS3=CAM3&POS4=CAM4](https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&SCREEN=4&POS1=CAM1&POS2=CAM2&POS3=CAM3&POS4=CAM4)

### 4.1.2. グループを表示する

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/dispCtl	GROUP	n:登録済グループ番号 (1~99999)	グループ番号を指定します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。

例 1) 操作モニターにグループ番号 3 を表示する。

<http://192.168.0.10/cgi-bin/dispCtl?GROUP=3>

例 2) 操作モニターにグループ番号 1、ライブモニター 2 にグループ番号 3 を表示する。

<http://192.168.0.10/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&GROUP=1&MON=live2&GROUP=3>

## メモ

- 「AI プライバシーガード録画カメラ (オフ)」をグループに登録している状態で、「AI プライバシーガード画像切替」の権限がないユーザーがログインしているときに、本 CGI コマンドを受信した場合、以下のレスポンスコードとメッセージを返します。

UNENABLE\_CAMERA\_ERROR(16)

現在のユーザーで使用できないカメラが指定されているため実行できません。

### 4.1.3. シーケンスを表示する

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/dispCtl	GSEQ	n:登録済シーケンス番号 (1~99999)	シーケンス番号を指定します。 ※CMDSEQ=start と併用します。
	CMDSEQ	start	シーケンスを開始します。 ※GSEQ と併用します。
		pause	実行中のシーケンスを一時停止します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。
		restart	一時停止中のシーケンスを再開します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。
	stop	シーケンスを停止します。 操作モニターの場合は全画面表示から通常画面へ戻り、ライブモニターの場合は一時停止をします。 ※他の操作パラメーターと併用できません。	
	INTERVAL	n:シーケンス間隔 (秒) (3~60)	シーケンス間隔を指定します。 ※GSEQ と併用します。 ※CMDSEQ=start と併用します。 ※指定しない場合は[設定]-[スタートモニター]-[ライブモニター]-[シーケンス間隔]で選択している間隔で動作します。



例 1) 操作モニターにシーケンス番号 5 を表示する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?GSEQ=5&CMDSEQ=start>

例 2) 操作モニターにシーケンス番号 1 を 3 秒間隔で、ライブモニター 2 にシーケンス番号 2 を 5 秒間隔で表示する。

[https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&GSEQ=1&INTERVAL=3&CMDSEQ=start  
&MON=live2&GSEQ=2&INTERVAL=5&CMDSEQ=start](https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&GSEQ=1&INTERVAL=3&CMDSEQ=start&MON=live2&GSEQ=2&INTERVAL=5&CMDSEQ=start)

例 3) ライブモニター 2 で表示中のシーケンスを一時停止する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=live2&CMDSEQ=pause>

例 4) 操作モニターで一時停止中のシーケンスを再開する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?CMDSEQ=restart>

例 5) ライブモニター 3 で表示中のシーケンスを停止する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=live3&CMDSEQ=stop>

#### 重要

- シーケンス表示中は以下の CGI コマンドを受け付けません。他のコマンドを送信する前に CMD=stop でシーケンスを停止してください。(\* : 任意の設定値)
  - 画面分割数の変更 /cgi-bin/dispCtl?SCREEN=\*\*
  - カメラ表示 /cgi-bin/dispCtl?POS\*\*=CAM\*\*
  - グループ表示 /cgi-bin/dispCtl?GROUP=\*\*
  - エリア枠表示 /cgi-bin/dispCtl?ALARM\*=\*\*
  - 魚眼表示形式変更 /cgi-bin/dispCtl? FISHEYEDISPLAYMODE=\*\*
  - 再生操作 /cgi-bin/dispCtl?PLAY=\*\*

---

## メモ

- 「AIプライバシーガード録画カメラ (オフ)」が設定されたグループをシーケンスに登録している状態で、「AIプライバシーガード画像切替」の権限がないユーザーがログインしているときに、本 CGI コマンドを受信した場合、以下のレスポンスコードとメッセージを返します。

UNENABLE\_CAMERA\_ERROR(16)

現在のユーザーで使用できないカメラが指定されているため実行できません。

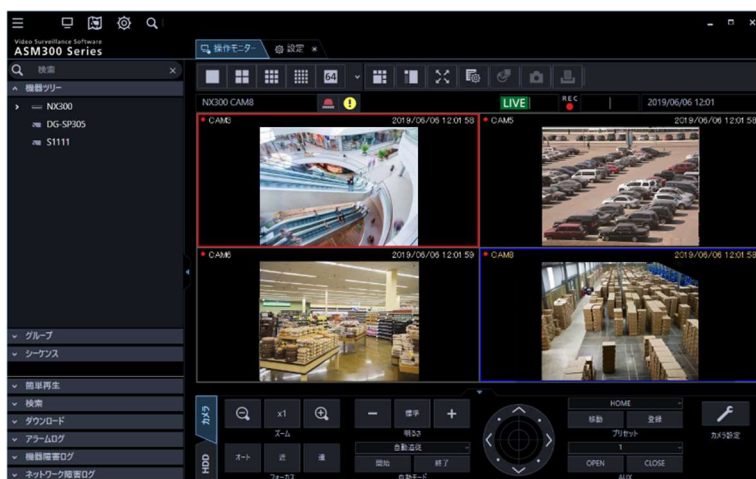
---

## 4.1.4. エリア枠を指定した色で表示する

画像表示エリアの各カメラの表示エリアに指定した色で枠を表示します。

※ 操作モニターでのみ動作します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/dispCtl	ALARMn n:表示エリア (1~64)	%23n n:エリア枠の表示色 (ARGB 形式)	エリア枠を指定した色で表示します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。
		off	エリア枠を非表示にします。 ※他の操作パラメーターと併用できません。



例 1) 操作モニターの表示エリア 1 に赤色のエリア枠を表示する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?ALARM1=%23FFFF0000>

例 2) 操作モニターの表示エリア 1 のエリア枠を非表示にする。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?ALARM1=off>

## 4.1.5. 魚眼表示形式を変更する

全方位カメラから撮像モード「魚眼」で受信した時に表示する形式を指定します。

- ※ 操作モニターが魚眼画像表示変更機能を利用可能な画面分割数で表示されており、なおかつ対象カメラの表示エリアが選択されている場合のみ動作します。そのため、魚眼表示形式を変更する場合は操作モニターを1画表示にして使用してください。
- ※ 魚眼画像表示変更機能を利用可能な画面分割数、およびカメラの設定については WV-ASM300UX の取扱説明書をお読みください。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/dispCtl	FISHEYEDISPLAYMODE	fisheye	魚眼形式で表示します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。
		1PTZ	1画 PTZ 形式で表示します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。
		4PTZ	4画 PTZ 形式で表示します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。
		panorama	パノラマ形式で表示します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。
		dblpanorama	ダブルパノラマ形式で表示します。 ※他の操作パラメーターと併用できません。

例 1) 操作モニターで全方位カメラの魚眼画像を 1 画 PTZ 表示にする。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?MON=ope&FISHEYEDISPLAYMODE=1PTZ>

---

### メモ

- [システム] – [3D デワーブ設定] の「3D デワーブ」がオンの設定で、本 CGI コマンドを受信した場合、以下のレスポンスコードとメッセージを返します。

UNENABLE\_CHANGE\_FISHEYE\_MODE\_ERROR(24)

現在選択中のカメラは魚眼モードの切り替えが行えないカメラまたは状態のため実行できません。

---

## 4.1.6. 再生する

レコーダーの録画を操作モニターで再生します。

※ 操作モニターでのみ動作します。また PLAY、PLAYDATE 以外の操作パラメーターと併用できません。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/dispCtl	PLAY	last	最新の録画を再生します。 ※再生する日時は、レコーダーの最新画像位置の設定により決まります。最新画像位置の設定に関しては、お使いのレコーダーの取扱説明書をお読みください。
		date	指定した時刻の録画を再生します。 ※PLAYDATE と併用します。
		pause	再生を一時停止します。
		stop	再生を停止しライブ画像へ切り替えます。
	PLAYDATE	再生日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定します。	再生開始時刻を指定します。 ※PLAY=date と併用します。

例 1) 操作モニターで最新の録画を再生する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?PLAY=last>

例 2) 操作モニターで 2019/01/22 12:00 の録画を再生する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?PLAY=date&PLAYDATE=2019%2f01%2f22%2012%3a00>

例 3) 操作モニターで再生を一時停止する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?PLAY=pause>

例 4) 操作モニターで再生を停止する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/dispCtl?PLAY=stop>

## 4.2. アラーム通知メッセージを表示する

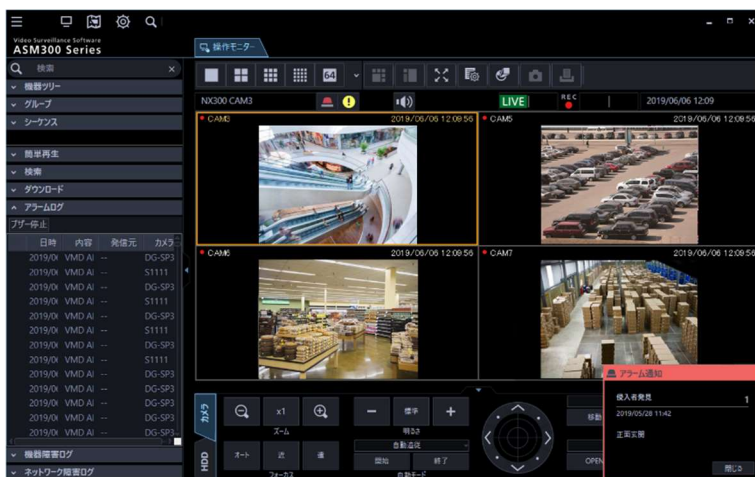
「alarmCtl」コマンドを使いタイトルやメッセージを指定して、操作モニターにアラームの通知画面をポップアップ表示します。

※ 操作モニターでのみ動作します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/alarmCtl	TITLE	タイトル（15文字以内） URL にエンコードして指定します。	アラーム通知メッセージのタイトルに表示する文字列を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。省略した場合は空欄を表示します。
	MSG	メッセージ本文（45文字以内） URL にエンコードして指定します。	アラーム通知メッセージのメッセージ本文に表示する文字列を指定します。
	DATE	日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定します。	指定した日時を表示します。 ※このパラメーターは省略可能です。省略した場合は CGI コマンドの受信時刻を表示します。
	BOTTOM	コメント（15文字以内） URL にエンコードして指定します。	アラーム通知メッセージのコメントに表示する文字列を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。省略した場合は空欄を表示します。
	SOUND	0	
1			アラーム通知メッセージ表示時にブザー音を鳴らします。 ※このパラメーターは省略可能です。省略した場合は0となります。

例 1) タイトル「アラーム通知」、メッセージ本文「侵入者発見」、日時「2019/05/28 11:42」、コメント「正面玄関」、ブザー音を有効としてアラーム通知メッセージを表示する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/alarmCtl?TITLE=%e3%82%a2%e3%83%a9%e3%83%bc%e3%83%a0%e9%80%9a%e7%9f%a5&MSG=%e4%be%b5%e5%85%a5%e8%80%85%e7%99%ba%e8%a6%8b&DATE=2019%2f05%2f28+11%3a42&BOTTOM=%e6%ad%a3%e9%9d%a2%e7%8e%84%e9%96%a2&SOUND=1>



## 重要

- アラーム通知メッセージの表示、ブザー音の鳴動に関しては、設定画面の[設定]-[イベント動作]-[アラーム設定]で設定している内容に従います。
- [アラーム通知] がオフに設定されている場合、CGI コマンドを送信してもアラーム通知メッセージの表示およびブザー音の鳴動はしません。
- [アラーム通知] がオン、[ブザー音] がオフに設定されている場合、CGI コマンドを送信すると通知メッセージは表示しますがブザー音は鳴動しません。

### 4.3. 本ソフトウェアを終了する

「appCtl」を使い、本ソフトウェアを終了します。

- ※ [設定] - [外部制御] - [基本設定] - [システム終了コマンド実行許可(ASM300 終了 / PC 終了 / PC 再起動)] をオンにしている場合のみ動作します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/appCtl	CMD	stop	本ソフトウェアを終了します。

例 1) 本ソフトウェアを終了する

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/appCtl?CMD=stop>

### 4.4. PC を終了／再起動する

「appCtl」を使い、PC をシャットダウンもしくは再起動します。

- ※ [設定] - [外部制御] - [基本設定] - [システム終了コマンド実行許可(ASM300 終了 / PC 終了 / PC 再起動)] をオンにしている場合のみ動作します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/sysCtl	CMD	shutdown	PC をシャットダウンします。 ※本ソフトウェア起動中のみ動作します。
		restart	PC を再起動します。 ※本ソフトウェア起動中のみ動作します。

例 1) PC をシャットダウンする

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/sysCtl?CMD=shutdown>

例 2) PC を再起動する

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/sysCtl?CMD=restart>



## 4.5. ナンバー情報を取得・登録する

本コマンドを使用する場合は、別途 WV-ASE334WUX が必要となります。

ナンバー情報の取得・登録には「nbcCtl」コマンドを使用します。コマンドのフォーマットを以下に示します。

/cgi-bin/nbcCtl? {操作パラメーター1} & {操作パラメーター2} &…

- 「nbcCtl?」以降に「&」で操作パラメーターを複数指定することができます。

※ナンバー認識情報に関する詳細については、WV-ASE334WUX の取扱説明書をお読みください。

### 4.5.1. アラーム情報を取得する

アラーム検索を実行し、検索結果の一覧を取得します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/nbcCtl	ALARMHISTORY	search	検索を実行します。
	NUMBEROFSEARCHES	n:最大検索件数 (1~1000)	最大検索件数を指定します。
	STARTTIME	検索開始日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定しま す。	アラーム検索の開始日時を指定します。 ※設定可能な範囲は 2005/01/01 00:00~2034/12/31 23:59 となりま す。
	ENDTIME	検索終了日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定しま す。	アラーム検索の終了日時を指定します。 ※設定可能な範囲は 2005/01/01 00:00~2034/12/31 23:59 となりま す。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
	ALARMNAME	アラーム名(16文字以内) URL にエンコードして指定します。	アラーム名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMTYPE, VERIFICATION と同時に指定することはできません。
	ALARMTYPE	inquiry	照会アラームの検索をおこないます。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMNAME と同時に指定することはできません。
		stay	滞留アラームの検索をおこないます。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMNAME と同時に指定することはできません。
		input1, ..., inputn n: 端子 CH 番号(1~16)	端子アラームの検索をおこないます。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMNAME と同時に指定することはできません。
CAMERA	カメラ名(60文字以内) URL にエンコードして指定します。	カメラ名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMNAME と同時に指定することはできません。	
TREATMENTSTATUS	notyet	処置状態が「未」のものを検索します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMNAME と同時に指定することはできません。	
	already	処置状態が「済」のものを検索します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMNAME と同時に指定することはできません。	
VERIFICATION	照合ルール名(16文字以内) URL にエンコードして指定します。	照合ルール名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※ALARMTYPE と同時に指定してください ※ALARMNAME と同時に指定することはできません。	

【応答フォーマット】

レスポンスのボディに、以下データが含まれます。

処置状態,発生時刻,アラーム名,タイプ,ルール,カメラ名,陸事,車種,用途,一連番号,アラームメッセージ,有効期限,付帯情報 1 ,付帯情報 2 ,付帯情報 3 ,付帯情報 4 ¥r¥n

(例) 未,2020/12/15 00:00:00,照合アラーム 1,照合,ルール 1 ,X2571L,福岡,123,あ,1234,,,,,,,,

例 1) 検索件数、日時の範囲のみを指定して検索を実行する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?ALARMHISTORY=search&NUMBEROFSEARCHES=1000&STARTTIME=2020/12/15 00:00&ENDTIME=2020/12/31 23:59>

例 2) アラーム名・カメラ名が一致するものを検索する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?ALARMHISTORY=search&NUMBEROFSEARCHES=1000&STARTTIME=2020/12/15 00:00&ENDTIME=2020/12/31 23:59&ALARMNAME=ALM1&CAMERA=CAM1>

## 4.5.2. 認識情報を取得する

認識情報検索を実行し、検索結果の一覧を取得します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/nbcCtl	INQUIRYHISTORY	search	検索を実行します。
	NUMBEROFSEARCHES	n:最大検索件数 (1~1000)	最大検索件数を指定します。
	TIMERANGESTART	検索開始日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定しま す。	認識情報検索の開始日時を指定します。 ※ 設定可能な範囲は 2005/01/01 00:00~2034/12/31 23:59 となりま す。
	TIMERANGEEND	検索終了日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定しま す。	認識情報検索の終了日時を指定します。 ※ 設定可能な範囲は 2005/01/01 00:00~2034/12/31 23:59 となりま す。
	CAMERA	カメラ名(60文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	カメラ名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。
	GSDF	陸事名(4文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	ナンバーの陸事名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。
	CARTYPE	車種名(3文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	ナンバーの車種名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。
	USE	用途名(1文字) URL にエンコードして指定しま す。	ナンバーの用途名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。
	SERIALNUMBER	一連番号(4文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	ナンバーの一連番号を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。
	DIVISION	enter	区分：入 を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。
out		区分：出 を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。	

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
	INQUIRYRESULT	match	照合結果が一致のものを検索します。 ※このパラメーターは省略可能です。
		unmatch	照合結果が不一致のものを検索します。 ※このパラメーターは省略可能です。
	INPUTTERMINAL EVENTINCLUDE	on	検索対象に端子アラームを含みます。 ※このパラメーターは省略可能です。
		off	検索対象から端子アラームを除外します。 ※このパラメーターは省略可能です。

#### 【応答フォーマット】

レスポンスのボディに、以下データが含まれます。

照合結果,認識時間,照合ルール名,カメラ名,入力端子名,陸事,車種,用途,一連番号,入出区分,有効期限,  
付帯情報 1 ,付帯情報 2 ,付帯情報 3 ,付帯情報 4 ¥r¥n

(例) 一致,2020/12/15 00:00:00,ルール 1 ,X2571L,,福岡,123,あ,1234,入,,,,

例 1) 検索件数、日時の範囲のみを指定して検索を実行する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?INQUIRYHISTORY=search&NUMBEROFSEARCHES=1000&TIMERANGESTART=2020/12/15 00:00&TIMERANGEEND=2020/12/31 23:59>

例 2) 陸事・一連番号が一致するものを実行する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?INQUIRYHISTORY=search&NUMBEROFSEARCHES=1000&TIMERANGESTART=2020/12/15 00:00&TIMERANGEEND=2020/12/31 23:59&GSDF=あ&SERIALNUMBER=1234>

### 4.5.3. 滞留情報を取得する

滞留検索を実行し、検索結果の一覧を取得します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/nbcCtl	STAY	search	検索を実行します。
	NUMBEROFSEARCHES	n:最大検索件数 (1~1000)	最大検索件数を指定します。
	TIMERANGESTART	検索開始日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定しま す。	滞留検索の開始日時を指定します。 ※設定可能な範囲は 2005/01/01 00:00~2034/12/31 23:59 となりま す。
	TIMERANGEEND	検索終了日時 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定しま す。	滞留検索の終了日時を指定します。 ※設定可能な範囲は 2005/01/01 00:00~2034/12/31 23:59 となりま す。
	CAMERAENTER1,..., CAMERAENTERn n:カメラ番号(1~16)	カメラ名(60文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	入判定するカメラ名を指定します。 ※CAMERAENTERn,CAMERAOUTn の いずれか 1 つは指定が必要です。
	CAMERAOUT1,..., CAMERAOUTn n:カメラ番号(1~16)	カメラ名(60文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	出判定するカメラ名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※CAMERAENTERn,CAMERAOUTn の いずれか 1 つは指定が必要です。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
	STAYTIMELOWERTIME	n:滞在時間下限 (0~99)	滞在時間の下限を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※STAYTIMELOWERDAY, STAYTIMEUPPERDAY と 同時に指定することはできません。
	STAYTIMEUPPERTIME	n:滞在時間上限 (0~99)	滞在時間の上限を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※STAYTIMELOWERDAY, STAYTIMEUPPERDAY と 同時に指定することはできません。
	STAYTIMELOWERDAY	n:滞在日数下限 (0~99)	滞在日数の下限を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です ※STAYTIMELOWERTIME, STAYTIMEUPPERTIME と 同時に指定することはできません。
	STAYTIMEUPPERDAY	n:滞在日数上限 (0~99)	滞在日数の上限を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。 ※STAYTIMELOWERTIME, STAYTIMEUPPERTIME と 同時に指定することはできません。
	STAYRULE	滞在ルール名(16文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	滞在ルール名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。

※滞在時間、滞在日数のいずれかの指定が必要です。

#### 【応答フォーマット】

レスポンスのボディに、以下データが含まれます。

[入]時間,[入]陸事,[入]車種,[入]用途,[入]一連番号,[入]有効期限,[入]付帯情報 1,[入]付帯情報 2,[入]付帯情報 3,[入]付帯情報 4,[出]時間,[出]陸事,[出]車種,[出]用途,[出]一連番号,[出]有効期限,[出]付帯情報 1,[出]付帯情報 2,[出]付帯情報 3,[出]付帯情報 4,滞留時間¥r¥n

(例) 2020/12/15 09:00:00,福岡,123,あ,1234,,,,,,2020/12/15 15:00:00,福岡,123,あ,・1234,,,,,,01:00:00

例 1) CAM1 から出入りした、滞在時間が 1 時間以上 3 時間以下の車両を検索する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?STAY=search&NUMBEROFSEARCHES=1000&TIMERANGESTART=2020/12/15 00:00&TIMERANGEEND=2020/12/31 23:59&CAMERAENTER1=CAM1&CAMERAOUT1=CAM1&STAYTIMELOWERTIME=1&STAYTIMEUPPERTIME=3>

---

#### メモ

- 指定期間内の入もしくは出の情報の対象登録数上限は、35,000 件となっています。件数超過(EXCEED\_MAX\_COUNT\_ERROR)が発生した場合は、検索期間を短くする必要があります。
-



## 4.5.4. 登録ナンバーリストを取得する

登録されている照合用ナンバー情報の一覧を取得します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/nbcCtl	GETREGISTERED	get	一覧を取得します。
	NUMBERLIST	登録ナンバーリスト名(16 文字以内) URL にエンコードして指定します。	登録ナンバーリスト名を指定します。

### 【応答フォーマット】

レスポンスのボディに、以下データが含まれます。

陸事,車種,用途,一連番号,有効期限,付帯情報 1 ,付帯情報 2 ,付帯情報 3 ,付帯情報 4 ¥r¥n

(例) 福岡,123,あ,1234, 2034/12/31 23:59:00,情報 1,情報 2,情報 3,情報 4

例 1) nolist1 の登録ナンバーリストを取得する。

<https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?GETREGISTERED=get&NUMBERLIST=nolist1>

## 4.5.5. 照合用ナンバー情報を登録する

ナンバー情報を照合用ナンバーリストに登録します。

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
/cgi-bin/nbcCtl	NUMBERREGISTER	登録ナンバーリスト名(16 文字以内) URL にエンコードして指定します。	登録するリストの名前を指定します。 ※このパラメーターには、登録済みの登録ナンバーリスト名のみ指定可能です。
	GSDF	陸事名(4 文字以内) URL にエンコードして指定します。	ナンバーの陸事名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能ですが、GSDF,CARTYPE,USE, SERIALNUMBER のいずれか 1 つは指定が必要です
	CARTYPE	車種名(3 文字以内) URL にエンコードして指定します。	ナンバーの車種名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能ですが、GSDF,CARTYPE,USE, SERIALNUMBER のいずれか 1 つは指定が必要です
	USE	用途名(1 文字) URL にエンコードして指定します。	ナンバーの用途名を指定します。 ※このパラメーターは省略可能ですが、GSDF,CARTYPE,USE, SERIALNUMBER のいずれか 1 つは指定が必要です
	SERIALNUMBER	一連番号(4 文字以内) URL にエンコードして指定します。	ナンバーの一連番号を指定します。 ※このパラメーターは省略可能ですが、GSDF,CARTYPE,USE, SERIALNUMBER のいずれか 1 つは指定が必要です

コマンド名	パラメーター名	パラメーター値	説明
	EXPIRATIONDATE	有効期限 YYYY/MM/DD HH:MM 形式を URL にエンコードして指定しま す。	ナンバー情報の有効期限を指定します。 ※設定可能な範囲は 2005/01/01 00:00~2034/12/31 23:59 となり ます。 ※このパラメーターは省略可能です。省 略した場合は 2034/12/31 23:59 が 設定されます。
	INCIDENTAL1,..., INCIDENTALn n:付帯情報番号(1~4)	付帯情報文字列(12文字以内) URL にエンコードして指定しま す。	付帯情報を指定します。 ※このパラメーターは省略可能です。

※各項目に指定可能な文字等の詳細は、WV-ASE334WUX の取扱説明書をお読みください。

例 1) nolist1 にナンバー情報を登録する。

[https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?NUMBERREGISTER=nolist1&GSDF=福岡  
&CARTYPE=123&USE=&SERIALNUMBER=1234&EXPIRATIONDATE=2034/12/31 23:59](https://192.168.0.10:443/cgi-bin/nbcCtl?NUMBERREGISTER=nolist1&GSDF=福岡&CARTYPE=123&USE=&SERIALNUMBER=1234&EXPIRATIONDATE=2034/12/31 23:59)

---

## メモ

- 同一のナンバー情報（陸事、車種、用途、一連番号が一致するもの）は上書き登録されます。
  - コマンドでのナンバー情報削除は行えません。照合の対象外としたい場合は、有効期限を過去日時に設定してください。
-

## 4.6. 本ソフトウェアからのクライアントへの応答

CGI コマンドをクライアントから本ソフトウェアへ送信後、本ソフトウェアからクライアントへ応答する HTTP ステータスコードとエラーメッセージを以下に示す。

### 4.6.1. HTTP ステータスコード

HTTP Status Code	Response phrase	内容
200	OK	リクエスト（CGI コマンド）の送信に成功しました。 本ソフトウェア内でコマンドの処理結果をメッセージボディに含みます。
400	Bad Request	リクエストが不正です。リクエストのフォーマットに誤りがある可能性があります。
401	Unauthorized	本ソフトウェアとのユーザー認証に失敗しました。
405	Method Not Allowed	リクエストが許可されていないメソッドで送信されました。 外部制御機能で使用可能なメソッドは「GET」と「HEAD」のみです。
406	Not Acceptable	Accept 関連のヘッダに受理できない内容が含まれています。
408	Request Time-out	リクエストがタイムアウトしました。
413	Request Entity Too Large	リクエストのサイズが許容範囲を超えています。
414	Request-URI Too Large	リクエストの URL が許容範囲を超えています。 URL は 1024 文字以内で指定する必要があります。
500	Internal Server Error	サーバー（本ソフトウェア）内部でエラーが発生しました。 もしくはクライアントと通信途中で切断されました。
501	Not Implemented	リクエストを実行するための必要な機能をサポートしていません。
503	Service Unavailable	サービスが利用できません。サービスが一時的に過負荷やメンテナンスなどで使用不可能となっています。
505	HTTP Version not supported	リクエストがサポートしていない HTTP プロトコルバージョンで送信されています。

## 4.6.2. レスポンスコードとメッセージ

CGI コマンドを本ソフトウェアが受信後、コマンドの内容を処理した結果を HTTP レスポンスのボディで応答します。ボディにはレスポンスコードとメッセージを含みます。なお、この場合 CGI コマンドの受信には成功しているため HTTP ステータスコードは「200 OK」で応答し、ボディの先頭には OK<BR><BR>が表示されます。

次に レスポンスコード<br>¥r¥n が表示されます。以下にレスポンスコードごとの説明を示します。

### 4.6.2.1. OK

レスポンスコードが「{m} =OK」の場合、本ソフトウェアに送信した CGI コマンドが正常に処理されたことを示します。{m} は MON= {m} で指定した値が表示されます。(MON が指定されていない場合は OK のみが表示されます)

例 : ope=OK

### 4.6.2.2. PARAM\_VALUE\_ERROR

レスポンスメッセージ	説明
{p}コマンドで使用できない値が指定されています。	パラメーター{p}で使用できない値が指定されています。 例 : /cgi-bin/dispCtl?POS99=CAM1
{p}コマンドの形式が不正です。	パラメーター{p}の形式が誤っています。 例 : /cgi-bin/dispCtl?PPPOS1=CAM1
ポジション指定が画数を超えています。	表示中の画面分割数を超えたエリアがパラメーターで指定されています。
{p}の指定が間違っています。	パラメーター{p}に指定している値が誤っています。 例 : /cgi-bin/dispCtl?POS1=A
{p}に指定した値が使用できない画数です。	パラメーター{p}で指定している値が使用できない画面分割数です。 例 : /cgi-bin/dispCtl?SCREEN=99
ポジションまたはカメラ指定が重複しています。	同一のエリアもしくはカメラを複数箇所指定しています。 例 : /cgi-bin/dispCtl?POS1=CAM1&POS2=CAM1

レスポンスメッセージ	説明
{p}コマンドで設定できる値の範囲を超えています。	パラメーター{p}の値が設定可能範囲にありません。 例：/cgi-bin/dispCtl?INTERVAL=1&SCREEN1
{p1}コマンドの{p2}で設定できる値の範囲を超えています。	パラメーター名{p1}と併用するパラメーター{p2}の値が設定可能な範囲を超えています。 例：/cgi-bin/dispCtl?GSEQ=1&INTERVAL=99&CMDSEQ=start
{p} コマンドのパラメーター値が不正です。	コマンド{p}のパラメーターの値が不正です。 例：/cgi-bin/dispCtl?CMDSEQ=startGSEQ=1

### 4.6.2.3. MON\_PARAM\_ERROR

レスポンスメッセージ	説明
「{m}」の値はモニター指定では使用できません。	MON={m}で指定した値が誤っています。 例：/cgi-bin/dispCtl?MON=live5
{p}のコマンドではモニター指定は操作モニターのみです。	操作モニターでのみ使用可能なパラメーター{p}でライブモニターを指定して送信しています。 例：/cgi-bin/dispCtl?MON=live1&SCREEN=1
{p}コマンドはモニターの指定はできません。	モニター指定できないコマンド{p}とモニター指定コマンド MON を併用しています。 例：/cgi-bin/alarmCtl?MON=ope&SOUND=1

### 4.6.2.4. PARAM\_NUMBER\_ERROR

レスポンスメッセージ	説明
{p1}は「{p2}」では使用できないコマンドです。	コマンド{p1}では使用できないパラメーター{p2}が指定されています。 例：/cgi-bin/dispctl?CAM1=1
{p}コマンドのパラメーター数が不正です。	コマンド{p}と併用するパラメーターに不要なパラメーターが含まれています。 例：/cgi-bin/dispctl?GROUP=1&INTERVAL=10
{0}コマンドのパラメーター値が不正です。	{0}コマンドに指定しているパラメーターの値が不正値です。 例：/cgi-bin/nbcCtl?ALARMHISTORY=get

レスポンスメッセージ	説明
GSEQ コマンドで指定する「CMDSEQ=start」がありません。	シーケンスの開始コマンドの内「CMDSEQ=start」が無い、もしくは誤っています。 例：/cgi-bin/dispCtl?GSEQ=5&CMDSEQ=STAT
GSEQ コマンドで指定する INTERVAL コマンドがありません。	シーケンスコマンドの INTERVAL に設定されている値が不正です。 例：/cgi-bin/dispCtl?GSEQ=1&CMDSEQ=start &INTERVAL5
CMDSEQ=pause または CMDSEQ=restart で指定するパラメーター数が不正です。	CMDSEQ=pause または CMDSEQ=restart と併用しているパラメーターに不要なパラメーターが含まれています。 例：/cgi-bin/dispCtl?CMDSEQ=pause&INTERVAL=10
{p}コマンドの組み合わせが不正です。	コマンド{p}のパラメーターの組み合わせが不正です。 例：/cgi-bin/dispCtl?INTERVAL=5&INTERVAL=5 &CMDSEQ=start
アラームポップアップ表示コマンドのパラメーターの組み合わせが不正です。	alarmCtl コマンドと併用できないパラメーターが含まれています。 例：/cgi-bin/alarmCtl?MSG=ABC&SCREEN=1
MSG コマンドが存在していません。	alarmCtl コマンドで必須のパラメーターMSG=**がありません。
アラームポップアップ表示コマンドのパラメーター数が不正です。	alarmCtl コマンドで指定可能なパラメーター数を超過しています。 例：/cgi-bin/alarmCtl?TITLE= {Title}&MSG={Message} &DATE={Date}&BOTTOM={Bottom}&SOUND=1&SOUND=1

#### 4.6.2.5. UNENABLE\_SEARCH\_ERROR

レスポンスメッセージ	説明
検索権限がありません。	ASM300 にログインしているユーザーに検索権限がありません。

#### 4.6.2.6. UNENABLE\_SET\_ERROR

レスポンスメッセージ	説明
設定権限がありません。	ASM300 にログインしているユーザーに設定権限がありません。

## 4.6.2.7. その他のエラーコード

レスポンスコード	レスポンスメッセージ	説明
CGI_NAME_ERROR	使用できない CGI 名です。	コマンド名が誤っています。
EXCLUSION_CONTROL_ERROR	処理中の為、実行できません。	本ソフトウェアで何らかの処理を実施中で CGI コマンドを受け付けられません。
NO_MONITOR_DISPLAY_ERROR	画面が表示されていないため実行できません。	指定した画面が表示されていません。
SEQUENCE_EXECUTION_ERROR	シーケンスを実行中のため実行できません。	シーケンス表示中に受け付けられない CGI コマンドが送信されています。
DISPLAYED_SETTING_SCREEN_ERROR	設定画面が表示されているため実行できません。	設定画面表示中は CGI コマンドを受け付けられません。
SEARCHING_ERROR	検索中のため実行できません。	検索中は CGI コマンドを受け付けられません。
FLYOUT_MENU_SHOWING_ERROR	フライアウトメニューが表示されているため実行できません。	メニュー表示中は CGI コマンドを受け付けられません。
UNENABLED_WINDOW_ERROR	ウィンドウが無効状態のため実行できません。	本ソフトウェアから起動する別の画面（静止画保存、印刷など）が開いているため CGI コマンドを受け付けられません。
SCREEN_COUNT_EXCEED_MAX_MONITOR_COUNT_ERROR	最大表示画数を超える画数が指定されたため実行できません。	[設定]-[システム]-[基本設定]画面で設定されている最大画面数を超えた画数が指定されています。
CHANGE_SCREEN_DURING_PLAY_BACK_ERROR	再生中では切り換えられない画数が指定されたため実行できません。	再生可能な画面分割数は最大 16 画です。再生中に 16 画を超えた画数への切り替えはできません。
POSITION_EXCEED_SCREEN_DISPLAY_ERROR	現在表示されている画数を超えた POS 位置が指定されているため実行できません。	現在表示している画数を超えたエリアが指定されています。
UNENABLED_CAMERA_ERROR	現在のユーザーで使用できないカメラが指定されているため実行できません。	ログインしているユーザーに表示権限のないカメラが指定されています。
UNENABLED_GROUP_ERROR	現在のユーザーで使用できないグループが指定されているため実行できません。	ログインしているユーザーに表示権限のないグループが指定されています。
UNENABLED_SEQUENCE_ERROR	現在のユーザーで使用できないシーケンスが指定されているため実行できません。	ログインしているユーザーに表示権限のないシーケンスが指定されています。



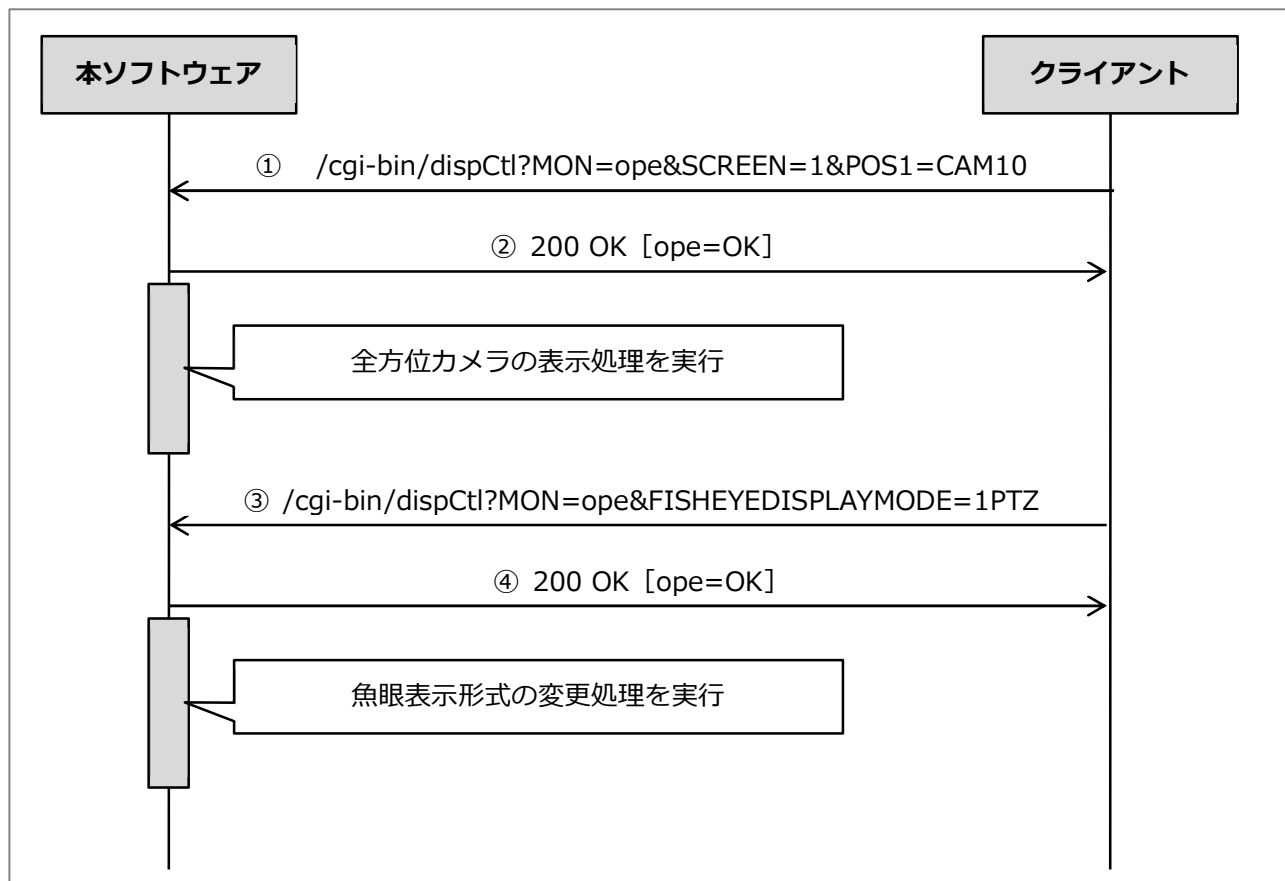
レスポンスコード	レスポンスメッセージ	説明
SEQUENCE_STATE_ERROR	シーケンスが一時停止中でないためシーケンス再開が実行できません。	シーケンスが一時停止中でないときに「CMDSEQ=restart」が送信されています。
	シーケンス動作中でないためシーケンスの一時停止を実行できません。	シーケンスが動作中でないときに「CMDSEQ=pause」が送信されています。
	シーケンスが実行中でないためシーケンス停止を実行できません。	シーケンスが動作中でないときに「CMDSEQ=stop」が送信されています。
UNENABLE_CHANGE_FISHEYE_MODE_ERROR	現在選択中のカメラは魚眼モードの切り替えが行えないカメラまたは状態のため実行できません。	魚眼表示形式の変更対象に全方位カメラでないカメラを選択しているか、表示変更の条件を満たしていません。
UNENABLE_PLAY_ERROR	現在のユーザーは再生権限がありません。	ログインしているユーザーに再生権限がありません。
PLAY_STATE_ERROR	再生状態でないため実行できません。	再生中でないときに、再生操作の CGI コマンドを送信しています。
ALARM_NOTIFICATION_OFF_ERROR	アラーム通知が OFF に設定されているため実行できません。	アラーム通知設定がオフに設定されているときにアラーム通知メッセージ表示の CGI コマンドを送信しています。
NO_CLOSE_PERMISSION_ERROR	システム終了コマンドの実行許可がありません。	システム終了コマンドの実行許可設定がオフのときにシステム終了の CGI コマンドを送信しています。
ALARMLINKAGE_EXECUTION_ERROR	アラーム連動を実行中のため実行できません。	アラーム連動によりライブモニターがアラームモード中のため CGI コマンドを受け付けられません。
ALARM_BUZZER_OFF_ERROR	アラームのブザー音が OFF に設定されています。	ブザー音がオフに設定されているときにブザー鳴動の CGI コマンドを送信しています。
HDD_PANEL_DISPLAY_ERROR	再生できるカメラではないため実行できません。	選択したカメラがレコーダーに接続されておらず録画がありません。
UNEXPECTED_ERROR	不定	(例外メッセージを応答します)

## 4.7. CGI コマンドの使用例

### 4.7.1. 全方位カメラの魚眼画像を 1 画 PTZ 形式で表示する

全方位カメラを操作モニター上に表示して、魚眼表示形式を 1 画 PTZ へ変更するまでの流れを以下に示します。

例) 撮像モード「魚眼」の全方位カメラのカメラ番号を 10 に設定している場合

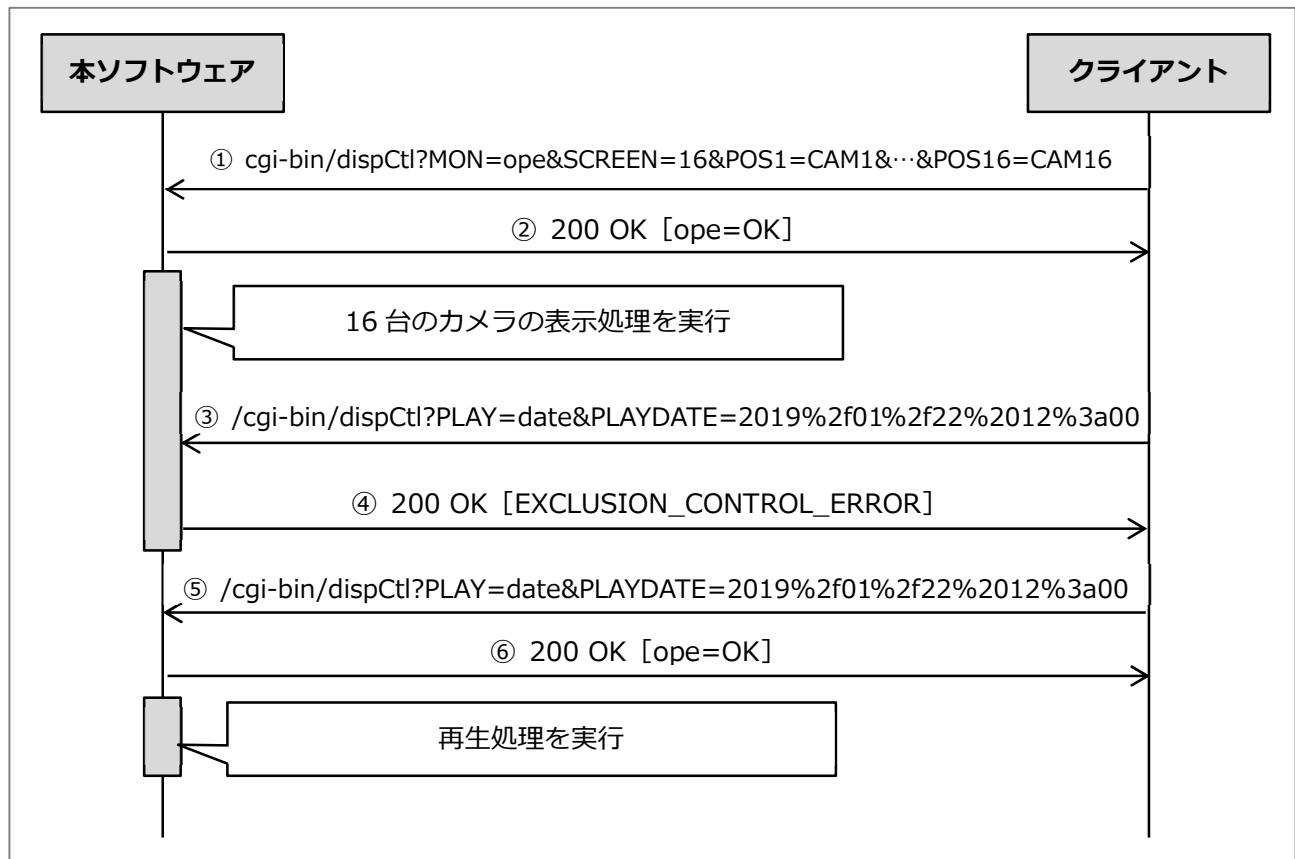


- ① 操作モニターの画面分割数を 1 に設定して、表示エリア 1 にカメラ 10 を表示する。
- ② 下記のレスポンスを本ソフトウェアが応答。
  - HTTP Status Code : 200、Response phrase : OK
  - レスポンスコード : ope=OK
- ③ 操作モニターの魚眼表示形式を 1 画 PTZ に変更するよう要求。
- ④ 下記のレスポンスを本ソフトウェアが応答。
  - HTTP Status Code : 200、Response phrase : OK
  - レスポンスコード : ope=OK

## 4.7.2. カメラを多画で表示して再生する

レコーダーに登録済みの複数台のカメラを多画で表示し、時刻を指定して再生を開始するまでの流れを以下に示します。多画でカメラを表示する場合、全てのカメラの表示が完了するまでその他の CGI コマンドを受け付けません。

例) 録画再生するレコーダー登録済みカメラを 16 台とし、各カメラ番号を 1～16 に設定している場合



- ① 操作モニターの画面分割数を 16 に設定して、表示エリア 1～16 にそれぞれカメラ 1～16 を表示する。
- ② 下記のレスポンスを本ソフトウェアが応答。
  - HTTP Status Code : 200、Response phrase : OK
  - レスポンスコード : ope=OK
- ③ 操作モニターに時刻を指定して表示中のカメラの録画再生を要求。
- ④ 本ソフトウェアでは 16 台のカメラの表示処理を実行中のため下記のレスポンスを応答。
  - HTTP Status Code : 200、Response phrase : OK、
  - レスポンスコード : EXCLUSION\_CONTROL\_ERROR
  - レスポンスメッセージ : 処理中の為、実行できません。

- ⑤ 一定時間をおいて再度、操作モニターに時刻を指定して表示中のカメラの録画再生を要求。
- ⑥ 下記のレスポンスを本ソフトウェアが応答。
  - HTTP Status Code : 200、Response phrase : OK
  - レスポンスコード : ope=OK

**重要**

- 本ソフトウェアからレスポンスコード : EXCLUSION\_CONTROL\_ERROR の応答があった場合、他の処理を実行中のため、送信した CGI コマンドが実行されません。そのため、この応答があった場合は一定時間後に再度 CGI コマンドを送信してください。

## 5. 故障かな!?

現象	原因・対策
CGI コマンドは正しいのに、本ソフトウェアが動作しない。	<p>以下をご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CGI コマンドで文字列を指定する場合は URL エンコードしてください。</li> <li>HTTP メソッドは「GET」もしくは「HEAD」を使用してください。</li> <li>本ソフトウェアの設定と不整合が生じる CGI コマンドを受け付けられません。(例：アラーム通知がオフに設定されているとき、アラーム通知メッセージ表示コマンドは受け付けられません。)</li> </ul>
	<p>本ソフトウェア以外のサーバーソフトウェアが動作している場合、受信ポートが重複する場合があります。アクセスログを確認し、他のサーバーソフトウェアを終了するか受信ポートを変更してください。</p>
ブラウザから CGI コマンドを送信すると警告が表示される。	<p>証明書の有効期限が切れている可能性があります。新しい証明書を登録してください。</p>
HTTP ステータスコードに 404 が表示される。	<p>HTTP ステータスコード：404 は本ソフトウェアが応答したものではありません。IIS など他のサービスが起動している可能性があります。他に起動している Web サービスなどがないか確認してください。</p>
本ソフトウェアの設定データをセーブして他の PC でロードしたが外部制御機能が使用できない。	<p>本ソフトウェアのライセンスおよび登録した証明書は設定データとしてセーブされません。必ず運用する PC でライセンスおよび証明書を登録してください。</p>
CGI コマンドを連続して送信すると 2 つ目以降のコマンドが実行されない。	<p>下記の応答があった場合、1 つ目に送信した CGI コマンドもしくはその他の処理を実行中のため、以降のコマンドを受け付けることができません。一定時間後に再度 CGI コマンドを送信してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レスポンスコード：EXCLUSION_CONTROL_ERROR</li> <li>レスポンスメッセージ：処理中の為、実行できません。</li> </ul>